













裁		方		地		崎	
延岡		都城		飯		肥	
曾木日向	日向	加久藤日向	小日向	大幸田日向	高城日向	福島日向	中村日向
東臼杵郡ノ内 北方村	延岡町 岡宮村 伊形村 南方村 東海村 北川村	東臼杵郡ノ内 岡宮村 恒宮村 伊形村 南方村 東海村 北川村	西諸縣郡ノ内 小林村 野尻村 須木村 高原村大字廣原	高崎村 山田村 志和池村	北諸縣郡ノ内 高城村 山之口村	北諸縣郡ノ内 都城市 五十市村 中郷村 三股村 沖水村 庄内村 西蔵村	南那珂郡ノ内 細田村 榎原村 市木村
兒湯郡ノ内 三財村	都於郡村 三納村	南那珂郡ノ内 低肥村 香田村 油津町 東郷村 鷺戸村 北郷村 酒谷村					

仙		所		判	
仙臺		高千穂		宮	
愛子陸前	陸前	七ノ山日向	宮水日向	鞍岡日向	高千穂日向
宮城郡ノ内 大湊村	宮城郡ノ内 七北田村 岩切村 高砂村 七郷村 原町	西臼杵郡ノ内 踏原村	西臼杵郡ノ内 七折村 岩井川村	西臼杵郡ノ内 鞍岡村 三ヶ所村 龍葉村	西臼杵郡ノ内 高千穂村 上野村 岩月村 田原村
東臼杵郡ノ内 西郷村	北郷村大字字納間	東臼杵郡ノ内 南郷村	東臼杵郡ノ内 南浦村	東臼杵郡ノ内 東郷村大字下三ヶ	東臼杵郡ノ内 宮高村 岩脇村 門川村 細島町 東郷村大字山陰八重原 追ノ内坪谷















山形	所					
	大宮岩代	川口岩代	高田岩代	野澤岩代	下岩代	山形岩代
羽前	南會津郡ノ内 大宮村 八幡村 朝日村 榎枝原村 大川村 伊南村 伊北村 富田村 小栗村	南會津郡ノ内 旭田村 二川村 長江村 楢原村 檜澤村 荒海村	大沼郡ノ内 旭村 高田村 水玉岡村 川路村 新田村 鳩ノ邊村 赤澤村 永井野村 藤川村	河沼郡ノ内 野澤村 上野尻村 廣阪村 芥草越村 尾野木村 登世島村 下谷村 隱合村 群岡村	河沼郡ノ内 阪下町 東松村 新郷村 柳津村 介戸村 飯谷村	耶麻郡ノ内 山形市 山形郡ノ内 新郷村 朝倉村 一ノ木村 早粉谷村 山郷村 木幡村 小川村
羽前	山形市 東郷村 下橋田飯田 成澤山田 堀田村大字 成澤山田	楢澤村 飯塚村 村木澤村 堀山村 柏倉門傳村 南沼原村	堀田村大字 中ノ川村 東川村 西川村 三谷村 原谷村 川西村	野澤村 實阪村 尾野木村 登世島村 下谷村 隱合村 群岡村	新郷村 若宮村 金上村 勝宮村 飯谷村	山形郡ノ内 相川村 朝倉村 一ノ木村 早粉谷村 山郷村 木幡村 小川村

山形	
左澤羽前	谷地羽前
西村山郡ノ内 左澤村 大谷村 七軒村 大井澤村 本郷村 川土居村	西村山郡ノ内 谷地村 北谷地村 西里村 醍醐村 溝延村 三泉村
寒河江羽前	尾花澤羽前
西村山郡ノ内 寒河江町 西根村 柴橋村 高松村 本道寺村 西山村 白岩村	北村山郡ノ内 尾花澤村 大石田村 常盤村 玉野村 鶴井田村 宮澤村 福原村
橋岡羽前	東根羽前
北村山郡ノ内 橋岡町 西郷村 大倉村 袖崎村 大高根村 戸澤村 大久保村 宮本村	北村山郡ノ内 東根村 山口村 大宮村 小田島村 東郷村 高崎村 田妻野村 長瀬村
山邊羽前	天童羽前
東村山郡ノ内 山邊村 相模村 最上村 大曾根村 金井村 大郷村 豊田村 大寺村 中村 作谷澤村	天童町 藏増村 寺津村 明治村 成生村 山寺村 高瀬村 楯山村 出羽村
上ノ山羽前	
南村山郡ノ内 上ノ山町 堀田村大字 野山神前湯 東置賜郡ノ内 中川村	南村山郡ノ内 中川村 金井村 宮生村 西郷村 水庄村 東村 山元村
東村山郡ノ内 鉦川村 千歳村	



地		米		新						
宮	木合海	東小國	金	高	小					
宮	木合海	東小國	金	高	小					
宮	木合海	東小國	金	高	小					
西村山郡ノ内 東五百川村 西五百川村	最上郡ノ内 新庄町 稻荷村	最上郡ノ内 八向村 大藏村	最上郡ノ内 西小國村	東置賜郡ノ内 米澤市 金山村 及位村 安樂城村	東置賜郡ノ内 南原村 山上村 南原村 上長井村 三澤村 廣幡村 六郷村 鹽井村	東置賜郡ノ内 高畑村 二井宿村 風代村 鶴岡村 和田村 上郷村 榎野目村	東置賜郡ノ内 小松町 大塚村 大川村 中郷村 吉島村	東置賜郡ノ内 宮内町 漆山村 梨郷村 吉野村 金山村 赤湯村 沖郷村 伊佐澤村	西置賜郡ノ内 長井町 長井村 西根村 平野村 豊田村 添川村 豊原村 豊川村	西置賜郡ノ内

裁		判		所	
荒	酒	松	遊	大	山
荒	酒	松	遊	大	山
荒	酒	松	遊	大	山
西置賜郡ノ内 荒砥町 鶴岡町 酒田町 東田川郡ノ内 新郷村 西田川郡ノ内 袖浦村	西置賜郡ノ内 北平田村 中平田村 鶴渡川原村 上田村 木橋村 西荒園村 西平田村	西置賜郡ノ内 日向村 大澤村 一條村 東平田村	西田川郡ノ内 飛島村 遊佐村 南遊佐村 稲田村 川行村 藤岡村 高瀬村 西遊佐村 吹浦村	西田川郡ノ内 大蔵寺村 京田村 榮村 東郷村 大泉村 稻生村 田川村	東田川郡ノ内 大泉村 木郷村 山添村 黄金村 齊村 東村 黒川村



























札	所 判										
	壽 都			福 山				久 遠			
	永△	能△	後△	江△	吉△	渡△	久△	久△	久△	久△	久△
札 幌 石狩	豊後志	能登後志	後志	江見町渡島	吉岡村	渡島	久遠志	久遠志	久遠志	久遠志	久遠志
札幌區 札幌市ノ内 下手宿村	島牧郡	磯谷郡	赤松郡	松前郡ノ内 江見町村	吉岡村	松前郡ノ内 赤松郡 山ノ上町 赤松村	久遠郡ノ内 太樺郡	久遠郡ノ内 久遠郡	久遠郡ノ内 久遠郡	久遠郡ノ内 久遠郡	久遠郡ノ内 久遠郡
苗穂村 山田村			雨垂石村	福島村	白符村	生符町 新尻町 東上町 及部町	太樺郡	太田村	上古丹村	湯ノ尻村	平田内村
丘穂村 雁來村 四山村			茂草村	宮歌村	禮龍村	白川町 大松前町 川原町 東中町 上及部村	太樺郡	上吉丹村	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村
篠路村 豊平村 白石村			濱部村	原口村		愛宕町 小松前町 中河原町 東下町 大澤村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村	貝取洞村
琴似村 上白石村 上手宿村						博知石町 松城町 神明町 東新町 荒谷村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村	貝取洞村
						唐津内澤町 枝ヶ崎町 馬形上町 泊川町 炭焼澤村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村	貝取洞村
						西館町 中町 馬形中町 馬形下町 實前町 札前村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村	貝取洞村

札										
所 判										
永△	能△	後△	江△	吉△	渡△	久△	久△	久△	久△	久△
札幌區 札幌市ノ内 下手宿村	島牧郡	磯谷郡	赤松郡	松前郡ノ内 江見町村	吉岡村	渡島	久遠志	久遠志	久遠志	久遠志
苗穂村 山田村			雨垂石村	福島村	白符村	生符町 新尻町 東上町 及部町	太樺郡	太田村	上吉丹村	湯ノ尻村
丘穂村 雁來村 四山村			茂草村	宮歌村	禮龍村	白川町 大松前町 川原町 東中町 上及部村	太樺郡	上吉丹村	湯ノ尻村	平田内村
篠路村 豊平村 白石村			濱部村	原口村		愛宕町 小松前町 中河原町 東下町 大澤村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村
琴似村 上白石村 上手宿村						博知石町 松城町 神明町 東新町 荒谷村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村
						唐津内澤町 枝ヶ崎町 馬形上町 泊川町 炭焼澤村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村
						西館町 中町 馬形中町 馬形下町 實前町 札前村	太樺郡	湯ノ尻村	平田内村	貝取洞村



增毛		地方									
		機					泉				
機	泉	機	泉	機	泉	機	泉	機	泉	機	泉
天鹽增毛郡	天鹽增毛郡	似日高	似日高	日高	日高	日高	日高	日高	日高	日高	日高
機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内	機似郡ノ内
平嶋村	冬島村	二七村	岡田村								

小樽		判裁									
		機					泉				
機	泉	機	泉	機	泉	機	泉	機	泉	機	泉
中後志(余市郡)	中後志(余市郡)	後志(高島郡)	後志(高島郡)	忍路郡	忍路郡	小樽郡	小樽郡	深北見(禮文郡)	深北見(禮文郡)	鹿北見(利尻郡)	鹿北見(利尻郡)
留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内	留前郡ノ内
三泊村	禮受村	天登雁村	白志泊村	力葦村							











和文ニハ商標又ハ記號等片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ歐字又ハ亞刺比亞數字ヲ挿入スル  
コトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第二十二條 左ノ通改正  
和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字及和文中ニ用ヒタル括弧小括弧ハ之ヲ片假名二字ニ計算スヘシ

第二十三條 左ノ通改正  
和文中ニ用ヒタル長音數字、刪除線、句讀點、新章及第十五條ニ記載シタル歐字又ハ亞刺比亞數字

ハ共一字又ハ一箇ヲ片假名一字ニ計算スヘシ

第二十四條 削除  
第七十三條ヘ左ノ一項ヲ追加ス

受信人名ヲ連署シタル電報ハ一通ノ送達紙ニ記載シ其内ノ一名ニ配達スヘシ

〔參照〕

太政官第七號布達電報取扱規則(明治十八年五月七日)抄錄

第十一條 普通譯中歐辭ヲ用ヒタルハ括弧ヲ以テ歐辭ノ前後ヲ圍ムヘシ

第十二條 祕譯ヲ用ヒタル私報ニハ文字ト數字トヲ混用スヘカラス

第十三條 普通譯ヲ用ヒタル和文ニハ數字ヲ混用スルコトヲ得

第十四條 和文ニハ普通譯祕譯譯語ヲ間ハス第十五條ノ場合ヲ除クノ外ハ亞刺比亞數字ヲ挿入スヘカラス

第十五條 和文ニハ數字及之ニ附屬シタル亞刺比亞數字ヲ挿入スルコトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第二十二條 和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ二字ニ計算スヘシ

例

ハ 二字

ニ 二字

三 二字

四 二字

五 二字

六 二字

七 二字

八 二字

九 二字

十 二字

十一 二字

十二 二字

十三 二字

十四 二字

十五 二字

十六 二字

十七 二字

十八 二字

十九 二字

二十 二字

二十一 二字

二十二 二字

二十三 二字

二十四 二字

二十五 二字

二十六 二字

二十七 二字

二十八 二字

二十九 二字

三十 二字

三十一 二字

三十二 二字

三十三 二字

三十四 二字

三十五 二字

三十六 二字

三十七 二字

三十八 二字

三十九 二字

四十 二字

四十一 二字

四十二 二字

四十三 二字

四十四 二字

四十五 二字

四十六 二字

四十七 二字

例  
八八六 數字刪除線  
合セテ五字  
セキタンサン、ロヤクエン 文字句讀點合  
セキタン、サン、ロヤクエン 七テ十二字  
同  
「a no 150」 小括弧歐字及亞刺比  
亞數字合セテ八字  
第二十四條 和文中ニ用ヒタル括弧及小括弧ハ之ヲ片假名二字ニ計算スヘシ  
第七十三條 電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ

○司法省令第十三號  
静岡地方裁判所沼津支部岡山地方裁判所高梁支部富山地方裁判所高岡支部高松地方裁判所丸龜支  
部廣島地方裁判所三次支部山口地方裁判所岩國支部熊本地方裁判所八代支部宮崎地方裁判所延岡  
支部仙臺地方裁判所古川支部及石巻支部ニ於テハ來ル九月十一日ヨリ地方裁判所ノ裁判權ニ屬ス  
ル民事第一審ノ事務ヲモ取扱フ  
明治二十六年六月二十二日  
司法大臣芳川顯正

○大藏省令第十三號  
明治二十三年勅令第四百四十五號供託規則第一條ニ依リ金錢有價證券ノ供託ヲ爲サントスルモノハ  
供託者ニ於テ其由ルヘキ法律ノ條項ヲ供託書ニ掲記スヘシ  
明治二十六年六月二十四日  
大藏大臣渡邊國武

〔參照〕  
勅令第四百四十五號供託規則(明治二十三年七月二十六日官報)抄錄  
第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

○大藏省令第十四號  
本年大藏省令第三號製鐵費納金收入規程中左ノ通追加ス  
明治二十六年六月二十八日  
大藏大臣渡邊國武







○農商務省令第十二號

明治二十三年法律第六十號施行ノ爲メ株式會社債券ニ關スル細則左ノ通相定ム但本令ハ本省ノ主管ニ屬セサル株式會社ニハ之ヲ適用セス

農商務大臣伯備後藤象二郎

明治二十六年七月七日

第一條 債券發行ノ認許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 會社ノ營業所
  - 二 株金總額及株金拂込額
  - 三 會社開業ノ年月日
  - 四 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期
  - 五 債券ノ發行ヲ要スル事由
  - 六 債券發行ノ總金額
  - 七 券面ノ金額
  - 八 債權者募集ノ初期及最終期
  - 九 債券償還ノ初期及最終期
  - 十 利子ノ歩合及其仕拂時期
  - 十一 元利金仕拂ノ豫算
- 前項第四號乃至第十號ニ記載ノ事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ其認許ヲ請フヘシ
- 第二條 債券發行ノ認許申請書ニハ左ノ契約要件ヲ具シタル書面ヲ添附スヘシ
- 一 債券償還ノ年月及其手續
  - 二 利子拂渡ノ手續

三 債券讓渡讓受ニ關シ會社及當事者ノ履行スヘキ手續並債券原簿記入停止ノ期日

四 債券ノ損傷又ハ紛失ノ節新券交付ノ手續及之ニ關スル費用ノ負擔者

前項各號ニ記載ノ事項ヲ變更シタルトキハ速ニ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第三條 債權者募集期日、募集價格及債券拂込期日ヲ定メタルトキハ豫メ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第四條 債權者ノ募集了リタルトキハ募集締切ノ日ヨリ三十日以内ニ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ但二回以上ニ分チ募集スルトキハ毎回届出ツルコトヲ要ス

一 募集締切ノ年月日

二 募集金額

三 應募金額

四 申込價格ノ最昂、最低及平均

五 募集契約締結ノ最低價格及會社ノ實收スヘキ金額

第五條 會社ハ毎年債券ニ關スル左ノ事項ヲ取調翌年二月末日迄ニ農商務大臣ニ届出ツヘシ

一 其年債券拂込高既往累年拂込總高及未拂込高

二 其年債券償還高既往累年償還總高及未償還高

三 利子仕拂高

四 債券讓渡讓受ノ人員及債金高

五 其年末現在債權者ノ員數

第六條 債券ニ關シ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第七條 本年六月三十日以前ニ債券ヲ發行シタル株式會社ハ第一條及第二條各號ノ事項ヲ詳具シ本年八月三十一日マテニ農商務大臣ニ届出ツヘシ



○海軍省令第四號

明治二十五年三月海軍省令第一號左ノ通改正ス

明治二十六年七月十一日

海軍大臣 伯耆西郷從道

鎮守府及鎮守府監督部ハ各共司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

〔參照〕

海軍省令第一號(明治二十五年三月八日)

各鎮守府造船部兵器部主計部醫務部及新原煤炭所ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○大藏省令第十六號

明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程左ノ通追加ス

明治二十六年七月十一日

大藏大臣 渡邊國武

第一條中勅令第二號ノ下ニ「明治二十六年勅令第七十號」ノ十二字及「保管金」ノ下ニ「及保管有價證券」ノ七字ヲ加フ

第二條中「保管金」ノ下ニ「又ハ保管有價證券」ノ八字ヲ加フ

第三條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ「權利者」ヨリノ下「現金」ヲ「三字ヲ削除ス

第四條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第五條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第七條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字及「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第八條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第九條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第十條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第十一條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第十六條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字及「金員」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第十八條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字及「拂戻金」ノ下ニ「又ハ拂戻有價證券」ノ八字ヲ加ヘ

第二項「拂戻金」ノ三字ヲ削ル

第十九條中「金員」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

第二十三條中第一項「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ第二項「保管金」ノ下ニ「若クハ有價證券」ノ七字ヲ加フ

第一號第二號第三號第四號第六號書式中「一金何圓」ノ左方ニ左ノ事項ヲ加フ

又ハ (金員ト有價證券トハ各別ニ調製スヘシ)

一 整理公債證書(又ハ何々)額面何圓也

同 何圓券何第何番

同 同 一枚

(有價證券多數ナルトキハ内閣ニ代フルニ別ニ内閣書ヲ添付スルモ妨ナシ此場合ニハ本文「内閣」トアル箇所(別紙内閣ノ通リト記入スヘシ)

第五號第六號書式中「金額」ノ下ニ「又ハ有價證券」ト加フ

〔參照〕

大藏省令第八號保管金取扱規程(明治二十三年三月十七日)抄録

第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄託スル保管金ハ此規程ニ依テ取扱フモノトス但從來預金局ニ寄託シタルモノハ當分ノ内從前ノ取扱ニ依ル

第二條 保管金ノ受渡ハ東京市內ニ於テハ預金本局其他ハ各地本金庫又ハ支金庫ニ於テ取扱フモノトス

第三條 保管金ハ權利者ヨリ現金ヲ拂込ムモノト各處ヨリ拂込ムモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フモノトス

第四條 權利者ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ總テ取扱官廳ヨリ寄託通知書ヲ得テ之ニ現金ヲ添ヘ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ差

出スヘシ但出納官更身元保證金ヲ拂込ムトキハ寄託通知書ヲ要セズ

第五條 取扱官廳ハ權利者ヨリ現金ヲ拂込マシムルトキハ第一號書式ニ依リ寄託通知書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ







本令ハ明治二十六年七月二十日ヨリ施行ス

明治二十六年七月十四日

内務大臣伯爵井上 馨

○内務省令第十一號

藥劑師試験ノ學說試験ニ合格シタル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得  
前項ニ據リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ試験主事ノ示定シタル期日内ニ願出テ其學說合格承  
認證ヲ受クヘシ

實地試験ヲ受ケントスル者ハ其試験願書ニ試験主事ノ學說合格承認證ヲ添ヘ願出ヘシ但試験手數  
料金參圓ヲ納ムヘシ

本令ハ明治二十六年七月二十日ヨリ施行ス

明治二十六年七月十四日

内務大臣伯爵井上 馨

○逓信省令第十二號

明治二十二年四月常省令第五號中北海道廳管下ノ下ヘ及島地ノ三字ヲ追加ス

明治二十六年七月十九日

逓信大臣伯爵黒田清隆

〔參照〕

逓信省令第五號(明治二十二年四月一日)抄録  
北海道廳管下ノ三等郵便局長ハ當分ノ内三等郵便局長採用規則第一條第二款ノ制限ニ滿タサル者ト雖採用スルコトアルヘシ

○逓信省令第十三號

特ニ指定スル郵便受取所ニ於テハ自今郵便爲替ノ受拂又ハ郵便貯金ノ預入ヲモ取扱ハシム  
但從來郵便受取所ニ併設セル郵便爲替取扱所又ハ郵便貯金預所ノ事務ハ本年八月一日ヨリ共事  
務ヲ併設セル郵便受取所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

明治二十六年七月二十一日

逓信大臣伯爵黒田清隆

○陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

明治二十六年七月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ

- 一 第一種帽前立共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴ニ著
- 六 日襪
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手躰
- 十 背嚢
- 十一 被服手入具
- 十二 飯盒
- 十三 水筒
- 十四 寢具

第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附録第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之

明治二十六年七月 省令 陸軍省第十號



ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ條例第八條ノ旅團長ニ交付ス

第五條 旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者<sup>二十歳未満ノ體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ</sup>者ヲ除ク<sup>者</sup>體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第六條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ

居住地旅管外ノ衛戍地ニ於テ服役センコトヲ志願スル者ノ身體検査ハ衛戍地所管ノ旅團長<sup>東京</sup>地ニ在テハ歩兵第一旅團長ヨリ居住地所管ノ旅團長ニ協議シテ之ヲ行フ可シ

事故アリテ指定ノ検査場ニ出頭シ難キ者ハ願ニ依リ他ノ徵兵署若クハ検査所ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ出願者アルトキハ甲乙大隊區司令官又ハ警備隊區司令官協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ本人ニ達ス可シ

第六條 前條ノ身體検査終ル後大隊區司令官又ハ警備隊區司令官共人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ旅團長ニ呈ス

第七條 旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者<sup>二十歳未満ノ體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ</sup>者ヲ除ク<sup>者</sup>體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第八條 旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者ハ旅管徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徵集ニ適セサル者ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヲシテ徵集延期ノ處分ヲ爲サシム可シ

第九條 旅團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者竝學術試験ニ落第セル者

第十條 旅團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

第十一條 旅團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ヲ自費服役官費服役次年廻シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該旅團長<sup>旅團長以下同シ</sup>ニ下付シ又其人員ヲ師團長ニ報告ス可シ

第十二條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ旅團長ニ報告ス可シ

第十三條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ旅團長ハ其旨ヲ聯隊長ニ通知シ師團長ニ報告ス可シ但二十歳以上ノ者ニ在テハ本籍地ノ大隊區徵兵官警備隊區徵兵官ニモ亦通知ス可シ

第十四條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條 條例第二十一條ニ依リ軍醫、藥劑生、獸醫、生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長

日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

日迄ニ入隊セシムルコトヲ得



其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ送附シ監督部長、軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ術成病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セン兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附錄第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十八條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ旅團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轉外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協議スルヲ要ス

第二十條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第一様式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
氏(主)族(平民)

名 氏  
年 月 日 生

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

條例第九條ニ當ル者ハ卒業證書寫ヲ五字ヲ長照明書ヲ四字ニ換ヘ月主ニアラサル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「月主(後見人)ノ承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試験ヲ受ケ「キ者ハ「御認可」以下ヲ「學術御試験」ノ上御認可相成度「月主」後見人」ノ承認書相添」此段奉願候也」ニ作ル

第二様式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用全額自辨ス可キ實力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
氏(主)族(平民)

名 氏  
年 月 日 生

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

第一様式欄外ノ記法ハ本様式ニモ適用ス

第二様式

一年志願兵服役承認書

氏 名

右者一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
月主(後見人)

名 氏  
年 月 日

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「全額自辨ス」キ實力無之候得共糧食費金三十八圓ハ無相違自辨ノ字ニ換フ



第四様式

身元證明書

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ  
 一 何年何月何日ニ處セラルル或ハ何年何月何日ニ處セラルル等  
 一 戸主或ハ本人何種公債證券或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等  
 一 戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等  
 一 何々ノ所得年額何千何百圓等  
 右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用金額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

氏 名

府(縣) 郡(市) 氏 名 印

條例第四條ニ當ル者ハ「右相違無之」云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ得ルコトヲ證明ス」ニ作ル

第五様式

一年志願兵認定證書

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具ハスル者ト認定ス  
 但何兵第何聯(大隊)ニ於テ服役ス可シ

年 月 日

職(尉)氏 名 印

府(縣) 族 籍 氏 名 年月日生

用紙十三行半葉紙 第七八様式

第 號

官費服役證書

陸軍一年志願兵トシテ糧食費ノ外官費ヲ以テ服役スルコトヲ許ス

年 月 日

職(尉)氏 名 印

府(縣) 族 籍 氏 名 年月日生

用紙十三行半葉紙











○農商務省令第十三號

取引所法施行規則左ノ通相定ム

明治二十六年七月二十二日

農商務大臣 伯耆後藤 繁二 郎

取引所法施行規則

- 第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ假定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ
- 一 取引所ノ組織名稱位置
- 二 資本金及發起人各自ノ引受クル釐金額
- 三 資本金使用ノ概算
- 四 賣買取引スヘキ物件
- 五 取引所ノ地區ト爲サント欲スル市町村名
- 六 設立ヲ要スル事由
- 七 賣買取引スヘキ物件ノ其市街内ニ於ル集散ノ沿革及現況
- 八 其市街内會員又ハ仲買人タルヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ
- 第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ商法第五百九條ニ據リ提出スヘキ發起認可申請書ニ第一條第四號乃至第八號ノ事項ヲ記載シタル書面及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ
- 第四條 取引所設立發起人ノ人員ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類毎ニ十五人以上タルヘシ
- 發起人ハ賣買取引セントスル物件ノ各種類ニ對シ人員ノ二分一以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會員組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人、株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タルノ資格ヲ

有スル者タルヘシ

- 第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ但其他必要ノ事項ハ之ヲ掲載スヘシ
- 一 取引所ノ名稱位置及地區
- 二 賣買取引スヘキ物件
- 三 資本金、株式ニ關スル事項
- 四 會員、仲買人ノ入退、身元保證金、組合代理人ニ關スル事項
- 五 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
- 六 會議ニ關スル事項
- 七 取引所手数料及仲買人口錢ニ關スル事項
- 八 仲買人ノ業務ニ關スル事項
- 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
- 十 賣買及受渡ニ關スル事項
- 十一 倉庫ニ關スル事項
- 十二 公定相場ニ關スル事項
- 十三 取引所ノ帳簿、記録及會員、仲買人ノ帳簿ニ關スル事項
- 十四 取引所ノ出納決算ニ關スル事項
- 十五 準備ノ積立金保管及出納ニ關スル事項
- 十六 仲裁ニ關スル事項
- 十七 違約處分ニ關スル事項
- 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
- 第六條 會員組織ノ取引所ノ發起人ニ於テ發起ノ認可ヲ得タルトキハ少クトモ十四日間之ヲ公告



シ會員ヲ募集スヘシ其公告中ニハ認可ノ年月日、第一條第一號乃至第四號ノ事項、取引所ノ地區及發起人ノ氏名ヲ掲載シ且各會員申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨ヲ附記スヘシ

株式會社組織ノ取引所ニ於テ目論見書ヲ公告シ株主ヲ募集スルトキハ其公告中ニハ商法第六十條規定ノ外第一條第四號ノ事項及取引所ノ地區ヲ掲載スヘシ

第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人ハ會員ヲ募集シタル後創業總會ヲ開クヘシ其總會ニ於テ總會員申込人ノ半数以上ノ承諾ヲ得テ定款ヲ定メ役員ヲ選舉シ後テ設立免許申請書ニ會員申込簿ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ

株式會社組織ノ取引所ノ發起人ハ商法第六十六條ニ據リ設立免許申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ免許ヲ受クヘシ

取引所ノ發起人ハ設立免許申請ト同時ニ定款及役員認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但役員ノ履歴書ヲ添付スヘシ

第八條 役員ノ認可ヲ得タルトキハ發起人共事務ヲ役員ニ引渡スヘシ

第九條 役員ニ於テ開業ノ準備ヲ整頓シタルトキハ開業ノ日ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ但株式會社組織ノ取引所ニ於テハ開業届出前ニ營業保證金納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 取引所ハ設立ノ免許ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ開業セサルトキハ其免許ノ效力ヲ失フモノトス

第十一條 取引所ノ仲買人ノ免許ヲ得ントスル者ハ其願書ニ履歴書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十二條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ取引所ニ送付シ取引所ハ免許料ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シタル受書及身元保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

免許狀ノ受書ハ速ニ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十三條 仲買人廢業シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ事由ヲ具シ農商務大臣ニ申出テ更ニ其交付ヲ請フヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ヲ添ヘ農商務大臣ニ申出テ書換ヲ請フヘシ

第十五條 取引所ハ左ノ報告書ヲ調製シ各期限ニ從ヒ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 毎日公定相場表
- 二 毎月賣買高表
- 三 毎月商品集散及商況報告  
以上翌月十五日限り發送
- 四 收支豫算表  
以上議定後十五日限り發送
- 五 每半季財産目錄
- 六 每半季貸借對照表
- 七 每半季損益計算表
- 八 每半季末日現在會員株主、仲買人氏名表  
以上決算期後二十日限り發送

第十六條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ハ前項書類ヲ接受シタルトキハ意見書ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但取引所設立發起認可申請書ヲ接受シタルトキハ特ニ發起人ノ身元ヲ詳查スヘシ

第十七條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ文書ハ總テ之ヲ取引所ニ差出シ取引所ハ地方長官



ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

〔參照〕

法律第三十二號商法(明治二十三年四月二十六日官報)抄錄  
第百五十九條 發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長官ヲ經由シテ目録見寄及ヒ假定款ヲ主務省ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス  
第百六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ日録見寄ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ年月日ト各株式申込入ニ假定款ヲ展限セシムル旨トヲ附記ス  
第百六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ免許ヲ請フ其中請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ  
第一 目録見寄及ヒ假定款  
第二 株式申込簿  
第三 發起ノ認可證

○陸軍省令第十一號

明治二十四年四月陸軍省令第六號第一項中「本人居住地」ヲ「本籍地」ニ改ム  
明治二十六年七月二十八日 陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍省令第六號(明治二十四年四月二十五日)抄錄  
陸軍豫備後備將校補充條例第二條ニ依リ勤務演習ヲ行フトキハ召集ニ關スル件左ノ通定ム  
一 陸軍豫備後備將校補充條例第二條ニ依リ一年志願兵終末試驗及第證書ヲ所持スル者ノ勤務演習ヲ行フトキハ師團長ヨリ本人居住地所管ノ旅團長大隊區司令官及區隊長ヲ經由シ召集ヲ命ス可シ但陸軍召集條例第五條式ノ演習令狀ヲ用フルモノトス

○陸軍省令第十二號

明治二十一年月十二號陸軍省令第二十八號陸軍軍醫學校候補生取扱規則ヲ廢ス  
明治二十六年七月二十九日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令第十三號

本年七月勅令第七十七號陸軍衛生部現役士官補充條例ニ依リ陸軍衛生部士官候補生並醫科大學依託學生採用規則左ノ通定ム  
明治二十六年七月二十九日 陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍衛生部士官候補生並醫科大學依託學生採用規則

第一條 陸軍衛生部醫科大學依託學生ノ補缺要員ハ陸軍省醫務局長ヲシテ帝國大學總長ニ協議セシメ志願者ヲ召募ス  
軍醫生、藥劑生ヨリ 衛生部士官候補生志願者ヲ召募スルトキハ醫務局長ヲシテ其要員ヲ師團長ニ移牒シ師團長之ヲ部隊ニ告達ス

第二條 醫科大學々生ニシテ依託學生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書及戸籍明細書ヲ添ヘ帝國大學總長ヲ經由シ陸軍省醫務局長ニ之ヲ出サシメ醫務局長ハ醫官ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ其體格適當ノ者ニ醫科大學依託學生ヲ命ス該學生卒業シタルトキハ醫務局長ハ大學總長ヨリ其卒業成績書ヲ受ケタル後陸軍大臣ノ認可ヲ得テ陸軍衛生部士官候補生ヲ命ス

軍醫生、藥劑生ヨリ 候補生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書戸籍明細書及卒業證書並免狀ノ寫ヲ添ヘ之ヲ所屬部隊長ニ出サシメ部隊長ハ本人ノ性質品行等ヲ調査シ其書類ヲ醫該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ序次ヲ定ムル爲メ隊附高級醫官若クハ衛戍病院長ヲシテ學術ノ試驗ヲ行ハシメ本人ノ書類ニ該成績書ヲ添ヘ醫務局長ニ具申シ醫務局長ハ各軍醫長ヨリ出シタル書類ヲ審査シ適當ノ者ヲ選拔シ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ陸軍衛生部士官候補生ヲ命ス

第三條 左ニ掲クル者ハ醫科大學依託學生及陸軍衛生部士官候補生ニ採用スルコトヲ得ス  
一 有妻ノ者  
二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者



三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四條 第二條ノ衛生部士官候補生並醫科大學依託學生志願者ノ願書履歷書戸籍明細書々式ハ左ノ如シ

願書 其一 醫科大學々生分

某儀

醫科大學第何年生ニ罷在候處陸軍衛生部醫科大學依託學生志願ニ付御検査ノ上御採用被下度就テハ御採用ノ上ハ御規則遵守可仕ハ勿論自己ノ情願ヲ以テ免除ノ旨出願致聞敷且本人身上ニ關スルコトハ身元引請人ニ於テ萬事引請可申候依テ別紙履歷書戸籍明細書相添(身元引請人連署ヲ以テ此段相願候也)

明治何年何月何日

何府(縣)何族(平民)

現住所東京府何區(郡)何町(村)番地

本人

姓 名 印

何府(縣)何族(平民)

東京府何區(郡)何町(村)番地住(寄留)

身元引請人

姓 名 印

(身元引請人ハ現在地ノ在籍又ハ寄留ニシテ公民タル者ニ限ル)

身元引請人ノ身上ニ異動アルトキハ相當ノ繼續者ヲ定ム(シ)

何區(郡)長 姓 名 印

右身元引請人ハ當區(郡)内ニ住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

陸軍省醫務局長姓名殿

願書 其二 軍醫生、藥劑生分

某儀

軍醫生(藥劑生)トシテ服役中ニ候處陸軍衛生部現役士官候補生志願ニ付御検査ノ上御採用被下度就テハ御採用ノ上ハ御規則遵守可仕依テ別紙履歷書戸籍明細書相添(此段相願候也)

明治何年何月何日

歩兵第何聯隊第何中隊

軍醫生(藥劑生)

姓 名 印

陸軍省醫務局長姓名殿

履歷書

- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ入り何學科修業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學研究ノ爲メ何國ニ在留
- 一 何年何月何學校ニ於テ何學科(醫學、藥學)卒業證書ヲ受ケ別紙寫之通
- 一 何年何月帝國大學醫科大學第何年生ニ入ル
- 一 何年何月第何號醫術開業(藥劑師)免許ヲ受ケ別紙寫之通
- 一 何年何月何學校(何病院)何々被中付(何官廳被任何官)
- 一 何年何月何々被免(被免本官)
- 一 何年何月一年志願兵トシテ歩兵第何聯隊ニ入營
- 一 何年何月軍醫生(藥劑生)ヲ命セラル
- 一 何年何月何々ニ依リ賞典下賜
- 一 何年何月何々ノ科ニ依リ何階
- 一 明治二十六年七月陸軍省令第十三號陸軍衛生部士官候補生並醫科大學依託學生採用規則第三條ニ抵觸スルモノニアラス右之通相違無之候也

戸籍明細書

姓 名 印

- 一 祖父 某
  - 一 祖母 某
  - 一 父 某
  - 一 母 某
  - 一 兄 某
  - 一 弟 某
  - 一 姉 某
  - 一 妹 某
- (同戸籍中ニ現在スルモノヲ感ス(シ))
- 何年何月何日生
- 同 同 同



右之通知送無之候也

何府(縣)何市(區)(郡)何町(村)番地住

何族(平氏)父(兄)ノ職名

戶主(戶主ニ非ル者ハ其長(次)男等)

姓 名 印

何年何月何日生

右證明候也

明治何年何月何日

何府(縣)市(何郡何町(村))長(或ハ其長)姓

名 印

○遞信省令第十四號

明治二十五年九月遞信省令第十三號小包郵便法施行細則第二十三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

明治二十六年八月四日

遞信大臣伯備黒田清隆

但交通不便ニシテ其ノ受取人本文規定ノ日限内ニ出局スルコト能ハサル地ハ出局シ得ヘキ最短期限マテ特ニ之ヲ留置スルコトアルヘシ

〔參照〕

遞信省令第十三號小包郵便法施行細則(明治二十五年九月二十七日)抄録

第二十三條第一項

小包郵便物ノ留置期限ハ其ノ到達ノ日ヨリ起算シテ十五日以内トス

○文部省令第十一號

高等師範學校及女子高等師範學校ニ於テ生徒ノ缺員ヲ臨時補充スル必要アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則第一條乃至第三條ノ規程ニ依ラス學力年齢該學級ニ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

明治二十六年八月五日

文部大臣井上毅

〔參照〕

文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則(明治十九年十月十四日)抄録

第一條 高等師範學校男女生徒ハ府縣知事之ヲ選擇シ高等師範學校長其中ニ就キ選抜スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男生徒ハ尋常師範學校ヲ卒業シタルモノヨリ選擇シ女生徒ハ尋常師範學校ノ二箇年ノ課程ヲ終リタルモノ若クハ之ニ均シキ學力並資格ヲ有スルモノヨリ選擇スヘシ

第三條 高等師範學校ノ男女生徒ハ毎年一度之ヲ募集シ其期日及員數ハ其都府高等師範學校ヨリ府縣ニ通知スヘシ

○遞信省令第十五號

明治十四年十二月太政官第一號布達西洋形船船長運轉手機關手試驗規程左ノ通改正シ明治二十六年



十月一日ヨリ施行ス

明治二十六年八月八日

逓信大臣 伯耆黒田清隆

西洋形船船長運轉手試験規程

- 第一條 西洋形船船長運轉手試験規程ニ於テ免狀ヲ受有セントスル者ハ此規程ニ據リ試験ヲ受クヘシ
- 第二條 試験ハ船舶司檢所ニ於テ執行ス其定日ハ隨時之ヲ告示ス
- 第三條 試験定日外ニ於テ臨時試験ヲ願フトキハ船舶司檢所ノ都合ヲ以テ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第四條 受驗人ハ試験定日ヨリ三日前迄ニ其履歴及品行ニ關スル證明書ヲ添へ試験願書ヲ船舶司檢所長ヘ差出スヘシ但願書用紙ハ船舶司檢所ニ於テ附與ス
- 第五條 受驗人ハ其族籍氏名、生年月及犯罪ノ有無ニ關シ本籍所管市區町村長ノ證明書ヲ試験願書ト共ニ差出スヘシ
- 第六條 受驗人外國人ナルトキハ本國領事ヨリ前項ノ證明書ヲ得テ之ヲ差出スヘシ
- 第七條 但受驗人既ニ海技免狀ヲ受有シタルモノハ本條ノ限リニアラス
- 第八條 第五條 左ニ記載スル者ハ受驗ヲ許サス
  - 一 公權ヲ剝奪セラレタル者
  - 二 公權停止中ノ者
  - 三 破産若クハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
  - 四 瘋癲白痴身體不具若クハ品行不良ニシテ本分ノ職ヲ執ルニ不適當ト認ムル者
  - 五 海技免狀ヲ受有シ其免狀ノ使用ヲ禁止セラレタル者又ハ免狀ノ使用ヲ停止セラレ滿期ニ至ラサル者
- 第九條 第六條 甲種免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ノ各款ニ記載スル履歴ヲ有スル者ニ限ル

二等運轉手

- 一 二等運轉手ノ受驗人ハ年齢二十年以上ニシテ少クモ四箇年間登簿噸數一百以上ノ西洋形航洋船ニ在リ其内少クモ一箇年間ハ横帆裝置ノ帆船運航ニ從事セシ者又ハ試験官吏ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上少クモ三箇年間登簿噸數一百以上ノ西洋形航洋船ニ在リ其内少クモ一箇年間ハ横帆裝置ノ帆船運航ニ從事セシ者
- 二 一等運轉手ノ受驗人ハ年齢二十一年以上ニシテ甲種二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニ在テ二等運轉手ノ職ヲ執リシ者
- 三 船長ノ受驗人ハ年齢二十三年以上ニシテ甲種一等運轉手若クハ乙種船長ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年間登簿噸數二百以上ノ航洋船ニ在テ各其免狀相當ノ職ヲ執リシ者
- 四 二等機關手
  - 一 二等機關手ノ受驗人ハ年齢二十一年以上ニシテ少クモ四箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事セシ者又ハ試験官吏ノ允當ト認ムル學校或ハ機關製造所ニ在テ少クモ二箇年間汽機汽罐ノ製造或ハ修繕ニ從事シ尙ホ少クモ二箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事セシ者
  - 二 一等機關手
    - 一 一等機關手ノ受驗人ハ年齢二十三年以上ニシテ甲種二等機關手ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年間公稱馬力一百以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關手ノ職ヲ執リシ者又ハ甲種二等機關手若クハ乙種一等機關手ノ免狀ヲ受有シ少クモ一箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋汽船ニ在テ機關長ノ職ヲ執リシ者



第七條 乙種免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ノ各款ニ記載スル履歴ヲ證明スル者ニ限ル

二等運轉手

二等運轉手ノ受驗人ハ年齢二十一年以上ニシテ少クモ五箇年間西洋形航洋船ニ乗組ミ其航洋ニ従事シタル者

一等運轉手

一等運轉手ノ受驗人ハ年齢二十三年以上ニシテ少クモ五箇年間登簿噸數一百以上ノ西洋形航洋船ニ在リ其航洋ニ従事セシ者又ハ乙種二等運轉手ノ免狀ヲ有シ少クモ二箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニ乗組ミ二等運轉手ノ職ヲ執リ若クハ一百未満ノ航洋船ニ乗組ミ少クモ二箇年間船長ノ職ヲ執リシ者

船長

船長ノ受驗人ハ年齢二十五年以上ニシテ乙種一等運轉手ノ免狀ヲ有シ少クモ二箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニ在テ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者又ハ水先人免狀ヲ有シ三箇年以上其營業ヲ爲シタル者

二等機關手

二等機關手ノ受驗人ハ年齢二十二年以上ニシテ少クモ五箇年間公稱馬力二十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ従事セシ者又ハ試験官吏ノ允當ト認ムル機關製造所ニ在テ少クモ二箇年間汽機汽鐘ノ製造或ハ修繕ニ従事シ尙ホ少クモ三箇年間公稱馬力二十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ従事セシ者

一等機關手

一等機關手ノ受驗人ハ年齢二十五年以上ニシテ乙種二等機關手ノ免狀ヲ有シ公稱馬力二十以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ少クモ二箇年間機關長ノ職ヲ執リシ者

第八條 小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ニ記載スル履歴ヲ有スルモノニ限ル

小形船機關手

小形船機關手ノ受驗人ハ年齢二十一年以上ニシテ少クモ三箇年間汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ従事セシ者

第九條 甲種二等運轉手ノ免狀ヲ有シ登簿噸數五百以上ノ航洋船ニ乗組ミ三等運轉手ノ名義ヲ以テ其職ヲ執リタル者又ハ甲種二等機關手ノ免狀ヲ有シ公稱馬力一百以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ三等機關手ノ名義ヲ以テ其職ヲ執リタル者ハ其在職日數ノ半數ヲ以テ各免狀相當ノ職ヲ執リタル履歴ト見做スコトヲ得ヘシ

第十條 左ニ掲クル履歴ハ此規程ニ定ムル履歴トシテ採用セス

一 湖川其他平水ノ海上ヲ限リ航通シタル船舶ノ乗組履歴但小形船機關手受驗人ノ履歴トシテハ此限リニアラス

二 繋留船乗組履歴

三 船舶ノ積置馬力其他在船年月等不分明ナル履歴

四 船舶ニ乗組ミ又ハ製造所ニ在ルモ其職務運轉手機關手ノ技術ニ關セサル履歴

五 年齢滿十五年前ニ係ル履歴

六 明治十二年八月以前ニ係ル履歴

第十一條 受驗人ノ履歴ハ左ニ記載スル書類ヲ以テ證明スルヲ要ス

一 船舶乗組履歴ハ領事浦役人又ハ該管官吏公吏ニ於テ公認シタル證明書

二 海軍艦船其他官廳所屬船乗組履歴ハ其官廳若クハ艦船ノ辭令書若クハ證明書

三 學校又ハ製造所ニ在リシ履歴ハ其校所授與ノ卒業證書若クハ證明書

四 海技免狀ヲ受有シタルモノハ其免狀



第十二條 試驗ハ體格筆記口述ノ三ニ分チ順次之ヲ執行ス

第十三條 受験人ハ其試驗ノ種類ニ從ヒ左記ノ試驗手数料ヲ納ムヘシ

但臨時試験ノ手数料ハ定期試験手数料ノ二倍トス

一 體格試験 五拾錢

二 筆記及口述試験

甲種船長 七圓

甲種一等運轉手 五圓

甲種二等運轉手 參圓

甲種一等機關手 七圓

甲種二等機關手 五圓

乙種船長 五圓

乙種一等運轉手 參圓

乙種二等運轉手 貳圓

乙種一等機關手 五圓

乙種二等機關手 參圓

小形船機關手 貳圓

第十四條 既納ノ試験手数料ハ事故ノ如何ヲ問ハズ之ヲ還付セズ

第十五條 體格試験ニ不合格ナル者ハ筆記及口述ノ試験ヲ受クルヲ得ス筆記試験ニ落第シタルモ

ノハ口述ノ試験ヲ受クルヲ得ス

筆記及口述試験ノ科目ハ別記ニ據ル

第十六條 筆記試験ニ於テ答ヲ爲スノ時限ハ試験官吏之ヲ定ム其時限迄ニ答ヲ了ラサル者ハ落第

者トス

第十七條 受験人疾病其他ノ事故ニ因リ試験半途ニシテ試験場ヲ退去シ又ハ試験當日ニ至リ出場

セサルトキハ其試験落第者ト見做スヘシ

第十八條 受験人試験場ニ於テ他ノ受験人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ爲シ又ハ之ヲ受ケ其他不都

合ノ所爲アリタルトキハ直ニ退場ヲ命ジ試験落第者ト見做スヘシ

第十九條 受験人試験問題ノ意義或ハ算式ヲ解シ得サルトキ又ハ正當ノ應答ヲ爲シ得サルトキハ

落第者トス

第二十條 受験人體格試験ニ不合格ナルトキハ其落第ノ日ヨリ三箇月以上ヲ經ルニアラサレハ再

ニ試験ヲ受クルヲ許サス

第二十一條 受験人筆記試験ニ於テ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回ニ及フトキハ其最後落第

ノ日ヨリ三箇月以上ヲ經ルニアラサレハ更ニ同種免狀ノ試験ヲ受クルヲ許サス

第二十二條 受験人口述ノ試験ニ於テ落第スルコト二回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六箇月

以上ヲ經過シ其内少クモ三箇月間ハ實地運航ニ從事セシ證明アルニアラサレハ更ニ同種免狀ノ

試験ヲ受クルヲ許サス

第二十三條 左ニ記載スル場合ニ於テモ第二十一條及第二十二條ニ規定シタル期間ヲ經過スルニ

アラサレハ更ニ試験ヲ受クルヲ許サス

一 乙種船長ノ受験人ニシテ筆記ノ試験ニ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回ニ及ロタル者甲

種一等運轉手ノ試験ヲ受ケントスルトキ

二 甲種一等運轉手ノ受験人ニシテ口述ノ試験ニ落第スルコト二回ニ及ロタル者乙種船長ノ試

験ヲ受ケントスルトキ

三 乙種運轉手又ハ機關手ノ受験人ニシテ筆記ノ試験ニ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回ニ

明治二十六年八月 省令 選信省第十五號



及ヒタル者甲種二等運轉手又ハ甲種二等機關手ノ試験ヲ受ケントスルトキ  
 四 乙種二等運轉手ノ受験人ニシテ筆記ノ試験ニ落第スルコト三箇月以内ニ於テ二回或ハ口述  
 ノ試験ニ落第スルコト二回ニ及ヒタル者又ハ小形船機關手ノ受験人ニシテ口述試験ニ落第  
 スルコト二回ニ及ヒタル者乙種一等運轉手又ハ乙種二等機關手ノ試験ヲ受ケントスルトキ  
 第二十四條 受験人試験ニ及第シタルトキハ試験官吏ヨリ直ニ及第證書ヲ本人ニ附與シ其旨逕信  
 大臣ヘ報告スヘシ  
 官立商船學校全科卒業生ニシテ本規程ニ定ムル受験資格ヲ具ヘ第三條及第四條ニ掲グル證明書  
 ヲ差出ス者ハ試験ヲ須ヒス其履歴相當ノ及第證書ヲ付與スヘシ  
 第二十五條 受験人試験及第後ニ於テ其履歴ニ詐偽錯誤アリテ受験ノ資格ナキコト又ハ試験ニ不  
 正ノ手段ヲ用ヒタルコトヲ發見スルトキハ其試験ヲ無効ト爲スヘシ

(別記)

試験科目

- 甲種
- 二等運轉手
- 筆記
- 一 航海運用ニ關スル用語ノ解明
- 二 航海日誌ノ記載
- 三 分數及比例算法
- 四 航海日誌ノ算法
- 五 緯線航行算法
- 六 「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ據リ經緯度若クハ針路航程ヲ知ル算法

- 七 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 八 太陽出沒方位ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
- 九 潮時ノ算法
- 十 時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知ル算法
- 十一 海圖ノ應用

口述

- 一 船具ノ取附及取脱
- 二 桅檣竝ニ帆架ノ揚降
- 三 帆ノ取扱
- 四 船舶常時運轉ノ方法
- 五 測程具及測深具ノ解明竝ニ用法
- 六 貨物積載法
- 七 海上衝突豫防法
- 八 萬國信號法
- 九 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 一等運轉手
- 二等運轉手ノ試験科目ヲ合セ
- 筆記
- 一 太陽方位角ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
- 二 子午線ニ近キ太陽高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三 「カムナー」法ニ據リ船舶所在ノ位置太陽ノ方位及方位角ヲ知ル算法



口述

- 一 六分儀ノ矯正及用法
- 二 下檣建設其他圓材ノ取扱
- 三 錨、錨鎖等ノ取扱及碇泊ノ方法
- 四 船舶荒天運用ノ方法
- 五 船舶ノ事變ニ臨ミ之ニ應スルノ處置
- 六 汽船ノ暗車作用及運轉ノ方法
- 七 日本沿岸水路ノ標識及地勢
- 八 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項  
船長

筆記

- 一 星象高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 二 太陰子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三 經度及太陽高度ニ據リ時辰儀ノ進差ヲ知ル算法
- 四 羅針自差ノ算法
- 五 「テレール」自差表調成及用法  
口述
- 一 羅針進差ノ解明及測定方法
- 二 原基羅針据付及矯正ノ方法
- 三 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

四 颶風ノ解明及避難法

- 五 船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 六 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項  
二等機關手

筆記

- 一 機關室日誌ノ記載
- 二 分數比例及面積求積ノ算法
- 三 安全齋炭費、馬力支柱、延引力、重量、諸唧筒等ニ關スル算法  
口述
- 一 汽機汽罐檢査ノ方法
- 二 汽機汽罐各部ノ效用及用法
- 三 汽機汽罐組成ノ理解及之ニ關スル諸器ノ用法
- 四 各種ノ汽機汽罐構造ノ解明
- 五 公稱馬力、實馬力及各種推進器ノ解明
- 六 汽罐内腐蝕、錆蝕ノ原因及其豫防ノ方法
- 七 車軸螺旋軸、滑輪ノ裝置及其位置ノ改正
- 八 汽機汽罐ニ生シタル損所ヲ修繕スルノ方法
- 九 運轉中汽機汽罐ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
- 十 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項  
一等機關手
- 二等機關手ノ試驗科目ヲ合セ



筆記

- 一 開平法應用算法
  - 二 螺旋螺互、觸火面、滑瓣、汽鐘、強弱膨脹力、連力、發條、「インヂケートル、ダイヤグラム」等ニ關スル算法
  - 三 汽機汽鐘局部ノ製圖
    - 口述
  - 一 延引力、壓棒力、旋捻力ノ解明
  - 二 汽機汽鐘材料ノ解明
  - 三 熱及膨脹力ノ解明
  - 四 諸滑瓣ノ解明
  - 五 「インヂケートル」ノ用法及同「ダイヤグラム」ノ解明
  - 六 汽機汽鐘要部ノ割合
  - 七 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
    - 乙種
    - 二等運轉手
- 筆記
- 一 航海日誌ノ記載
  - 二 加減乗除應用算法
  - 三 海圖ノ應用
    - 口述
  - 一 桅樁竝ニ帆架ノ揚降

帆ノ取扱

- 二 船泊時運轉ノ方法
  - 三 測程具及測深具ノ解明竝ニ用法
  - 四 海上衝突豫防法
  - 五 萬國信號法
  - 六 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
    - 一等運轉手
    - 二等運轉手ノ試験科目ヲ合セ
- 筆記
- 一 航海日誌ノ算法
  - 二 太陽出沒方位ニ據リ羅針ノ偏差ヲ知ル算法
  - 三 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
  - 四 潮時ノ算法
    - 口述
  - 一 錨鎖等ノ取扱及碇泊ノ方法
  - 二 船舶荒天運用ノ方法
  - 三 船舶ノ事變ニ臨ミ之ニ應スルノ處置
  - 四 貨物積載法
  - 五 汽船暗車ノ作用
  - 六 日本沿岸水路ノ標識及地勢
  - 七 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項



船長

二等運轉手一等運轉手ノ試験科目ヲ合セ

筆記

- 一 太陽方位角ニ據リ羅針ノ偏差ヲ知ル算法
- 二 「サムナー」法ニ據リ船舶所在ノ位置ヲ知ル算法
- 三 羅針自差ノ算法
- 四 「ナビール」自差表調成及用法

口述

- 一 六分儀ノ矯正及用法
- 二 羅針偏差ノ解明及測定方法
- 三 原基羅針据付ノ方法
- 四 汽船運轉ノ方法
- 五 船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 六 颶風ノ解明及避難法
- 七 船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 八 前取項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

二等機關手

筆記

- 一 機關室日誌ノ記載
- 二 分數算法
- 三 機關室消耗品ニ關スル算法

口述

- 一 汽機汽罐検査ノ方法
- 二 汽機汽罐各部ノ效用及用法
- 三 汽機汽罐組成ノ理解及之ニ關スル諸器ノ用法
- 四 汽機汽罐ニ生シタル損所ヲ修繕スルノ方法
- 五 運轉中汽機汽罐ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
- 六 前取項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

一等機關手

二等機關手ノ試験科目ヲ合セ

筆記

- 一 馬力、安全弁、汽罐強弱等ニ關スル算法
- 二 公稱馬力、實馬力、及各種推進器ノ解明
- 三 車軸、螺旋軸、滑機ノ裝置及其位置ノ改正
- 四 「インヂケートル」ノ用法及同「ダイヤグラム」ノ解明
- 五 前取項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

小形船機關手

口述

- 一 汽機汽罐ノ検査及運轉ノ方法
- 二 運轉中汽機汽罐ノ取扱
- 三 汽機汽罐各部ノ用法



- 四 汽機汽罐ニ屬スル諸器ノ用法
- 五 汽機汽罐ノ損所ヲ修繕スルノ方法
- 六 運轉中汽機汽罐ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
- 七 前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○文部省令第十二號

明治二十五年文部省令第十九號ヲ廢ス

明治二十六年八月二十三日

文部大臣 井上毅

〔參照〕

文部省令第十九號(明治二十五年十月十二日)  
 北海道廳長官府廳知事ニ於テ學力品行等ニ關シ特ニ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員ニ適任ト思慮スル者アル時  
 ハ其當中ニ依リ明治十九年十一月ニ文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免狀規則第六條但書ノ例ニ  
 依リ檢定ヲ行ヒ教員免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○農商務省令第十四號

左ノ諸病ニ罹リタル牛馬羊豕ノ死體ハ埋没後十二箇年ヲ經過セサレハ發掘スルコトヲ得ス違背シ  
 タル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス但獸類傳染病豫防規則ニ正條アルモノハ此限ニ在ラ  
 ス

明治二十六年八月二十八日

農商務大臣 伯耆後藤象二郎

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鵝口瘡
- 六 羊痘

○大藏省令第十八號

記名公債證書ヲ所有スル商事會社ハ印鑑ヲ差出シアル裁判所ノ證明ヲ經テ其印鑑ヲ日本銀行ニ差  
 出スヘシ

明治二十六年九月五日

大藏大臣 渡邊國武

○逓信省令第十六號

海技免狀取扱規則左ノ通知定メ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治二十六年九月八日

逓信大臣 伯耆黒田清隆

海技免狀取扱規則

第一條 本則ニ於テ海技免狀ト稱スルハ西洋形船船長、運轉手、機關手免狀規則ニ據リ授與スル所  
 ノ免狀ヲ謂フ

第二條 成規ノ試験ヲ受ケ船長、運轉手又ハ機關手タルノ及第證書ヲ得タル者海技免狀ヲ受有セ  
 ントスルトキハ其願書ニ試験及第證書ノ謄本ヲ添ヘ試験ヲ受ケタル船舶司檢所ヲ經由シテ逓信  
 省ニ差出スヘシ

西洋形船船長、運轉手、機關手免狀規則第八條ニ依リ外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者ニシテ帝  
 國政府ノ海技免狀ヲ受有セントスル者ハ其願書ニ其免狀ノ謄本及履歷證明書竝ニ本邦人ニ在テ  
 ハ所管市町村長外國人ニ在テハ本國領事ノ身分證明書ヲ添ヘ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ逓信省  
 ニ差出スヘシ

第三條 前條ノ出願者アリタルトキハ逓信省ニ於テ海員名簿ニ登錄シタル後第一號第二號第三號



若クハ第四號書式ノ海技免狀ヲ調製シ本人又ハ其代理人ニ交付ス

第四條 第二條第一項ニ據リ海技免狀ノ下附ヲ出願スル者至急航海ヲ要シ其下附ヲ待ツノ暇ナキトキハ及第證書ノ日附ヨリ起算シ三箇月以内該證書ヲ以テ海技免狀ニ代用スルコトヲ得

第五條 下等ノ海技免狀ヲ受有スル者高等ノ海技免狀ヲ受有スルトキハ直ニ下等ノ海技免狀ヲ逓信省ニ返納スヘシ

第六條 海技免狀ヲ亡失若クハ毀損シタルトキ又ハ氏名其他免狀面記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ三十日以内ニ其事由ヲ具シ氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ所管市町村長ノ證明ヲ受ケ免狀ノ書替若クハ再授ヲ逓信省ニ願出ツヘシ

第七條 第二條及第六條ニ依リ海技免狀ノ下付書替若クハ再授ヲ願出ツル者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 海技免狀ヲ受有スル者族籍ヲ變更シタルトキハ所管市町村長ノ證明ヲ受ケ三十日以内ニ逓信省ヘ届出ツヘシ

第九條 海技免狀ヲ受有スル者廢業若クハ死亡シタルトキハ其事由ヲ具シ本人又ハ遺族者ヨリ三十日以内ニ該免狀ヲ逓信省ニ返納スヘシ

第十條 第五條第六條第八條第九條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則  
第十一條 本則施行以前ニ於テ廢業若クハ死亡シ又ハ族籍氏名ヲ變更シタル者アルトキハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第六條第八條又ハ第九條ニ定ムル手續ヲ履行スヘシ

第一號書式(縦九寸 横一尺二寸)裏面英譯ヲ付ス

花紋

第 號

海技免狀

國府縣準士族平民

氏 名

生年月日

右者成規ノ試験ニ及第シ日本船舶ニ於テ甲種何々ノ職務ヲ執ルニ適當ナリト認めルヲ以テ明治十四年十二月第七十五號布告西洋形船舶長進轉手續關手免狀規則第二條ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治 年 月 日

逓信大臣 氏 名 印

菊 章

刺 印

明治二十六年九月 省令 逓信省第十六號

三二七



第一號書式(横一尺二寸)裏面英語ヲ付ス

第 號

花紋

御 印

海技免狀

應府縣華士族平民

氏 名

生年月日

明治 年 月 日

逓信大臣 氏 名 印

右者何國假令ハ英政府ノ何々海技免狀ヲ受有シ日本船舶ニ於テ甲種何々ノ職務ヲ執ルニ適當ナリト認ムルヲ以テ明治十四年十二月第七十五號布告西洋形船舶長運轉手續關手免狀規則第八條ニ據リ此免狀ヲ授與ス

第 號

花紋

御 印

海技免狀

應府縣華士族平民

氏 名

生年月日

明治 年 月 日

逓信大臣 氏 名 印

右者成規ノ試験ニ及第シ日本船舶ニ於テ乙種何々ノ職務ヲ執ルニ適當ナリト認ムルヲ以テ明治十四年十二月第七十五號布告西洋形船舶長運轉手續關手免狀規則第二條ニ據リ此免狀ヲ授與ス

第三號書式(横一尺二寸)



第四號書式(横一尺二寸)

花紋

別印

第 號

海技免狀

臨府縣華士族平民

氏 名

生年月日

右者成規ノ試験ニ及第シ日本船舶ニ於テ小形船舶關手ノ職務ヲ執ルニ適當ナリト認ムルヲ以テ明治十四年十二月第七十五號布告西洋形船舶長運轉手續關手續關免狀規則第二條ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治 年 月 日

逓信大臣 氏 名 印

桐 章

○大藏省令第十九號

明治二十三年大藏省令第三十三號預金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年九月二十日

大藏大臣 渡邊 國武

預金取扱規程

- 第一條 明治十八年布告第十三號明治二十三年法律第七十五號ニ依ル預金ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 預ケ人ニ於テ預ケ金ヲ爲ストキハ現金ニ第一號書式ノ拂込書及第二號書式ノ印鑑ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但第二回以後ノ預ケ金ヲ爲ス場合ニハ印鑑ヲ要セス
- 第三條 金庫ニ於テ前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ケ人ヘ交付スヘシ
- 第四條 預ケ人ニ於テ預金ヲ以テ公債證書ノ購入ヲ請求スルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク該預リ金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ
- 第五條 大藏省ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ
- 第六條 大藏省ニ於テ預金制限超過額ヲ以テ公債證書ヲ購入スル場合ニハ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ
- 第七條 中央金庫ニ於テ前二條ニ依リ日本銀行ヨリ公債證書ヲ領收シタルトキハ第六號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ取扱金庫ヘ送付スヘシ



第八條 預ケ人ニ於テ公債證書購入済ノ通知ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ式ノ如ク保管證書領收ノ證明ヲ爲シ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出シ該通帳ニ購入代價ニ對スル預金仕拂ノ記入證明ヲ受ケ保管證書ヲ受取ルヘシ

第九條 預ケ人ニ於テ預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第七號書式ノ領收證書ニ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ共預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ

第十條 金庫ニ於テ前條ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヘ式ノ如ク記入證明シ現金ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第十一條 預ケ人ニ於テ公債證書全部ノ受戻ヲ請求スルトキハ保管證書ヘ式ノ如ク裏書ヲ爲シ第八號書式ノ請求書ト共ニ中央金庫ヘ差出スヘシ

第十二條 預ケ人ニ於テ公債證書ノ内幾分受戻ヲ請求スルトキハ第九號書式ノ請求書ニ第十號書式ノ領收證書及保管證書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ヘ差出スヘシ

中央金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲ爲シ該公債證書ト共ニ返付スヘシ

第十三條 中央金庫ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ保管ノ公債證書ヲ交付スヘシ

書留郵便其他ノ運送便ヲ以テ遞送ヲ望ムモノアルトキハ預ケ人ノ危險ニテ之ヲ遞送スヘシ

第十四條 前條ノ遞送費ハ預ケ人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ遞送ヲ要スルモノハ相當ノ郵便切手ヲ前以テ中央金庫ヘ送付シ其他ノ便ニヨルモノハ遞送賃金先拂ヲ以テ遞送スヘシ

第十五條 預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシ之ヲ計算シ共元金ニ組入ルヘシ

預ケ人ハ毎年六月預金通帳ヲ共預ケ入ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ利子元加ノ記入ヲ受クヘシ

第十六條 元金ニ加ヘサル預金ノ利子ハ預金ノ全額ヲ拂戻ストキニ限り之カ仕拂ヲ爲スモノトス

預ケ人ニ於テ前項ノ利子ヲ受取ラントスルトキハ第十一號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十七條 大藏省ハ前條第二項ノ請求書ニ依リ第十二號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ預ケ人ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第十八條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證明ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ仕拂ヲ受クヘシ

第十九條 預金ハ預ケ入タル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セシ

預金ハ拾錢未滿ノ端金ニ利子ヲ附セシ

第二十條 第七條ニ依リ領收シタル公債證書ノ利子ハ中央金庫ニ於テ受取リ取扱ノ金庫ヲシテ之ヲ其所有主ノ預金ニ組入レシメ第十三號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ

第二十一條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ金額預ケ入ノ記入ヲ受クヘシ

第二十二條 預ケ人ニ於テ預金全額ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ返付スヘシ

第二十三條 預ケ人ニ於テ甲ノ金庫ヨリ交付シタル預金通帳ヲ以テ乙ノ金庫ニテ受渡ヲ請求スルトキハ第十四號書式ノ申込書及印鑑ニ預金通帳ヲ添ヘ乙ノ金庫ヘ差出シ番記號ノ書換ヲ受クヘシ

第二十四條 預金ノ受渡ニ關スル書類ニハ共有ニ係ルモノハ其總代人二名調印シ又社寺教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲ爲シ其擔當者一名記名調印スヘシ但法人タル會社ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セシ

第二十五條 前條ノ社寺教會會社ニシテ名義變更改印位置移轉シタルトキハ其旨金庫ヘ届出ヘシ擔當者總代人氏名變換改印轉任ノトキ又同シ

前項改印ノ届書ニハ印鑑ヲ添フヘシ



第二十六條 前條ノ擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑ヲ添ヘ金庫へ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ

第一號書式(用紙寸法藥液板半折)

預金拂込書

一金何圓也

前借金額預金規則ニ由リ預ケ入度候ニ付拂込候也

(次回ヨリ拂込ムトキハ文中預金規則ニ由リトアル文字ヲ何算何號通帳ヲ以テト記載スヘシ)

年 月 日 印

府縣都市町村番地 氏 名 印

(社寺教會 會社ノ印)

官總積立金ハ官氏名印

共同積立金ハ總代人二名共住所氏名等式ノ如ク連署調印スヘシ

第二號書式(用紙寸法藥液板四ツ切)

何金庫宛

印鑑 印

(社寺教會 會社ノ印)

府縣都市町村番地 氏 名 印

官總積立金ハ官氏名印

共同積立金ハ總代人二名共住所氏名等式ノ如ク連署調印スヘシ

第三號書式

預金受渡摘要

一預金ヲナスニハ拂込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ此通帳ト共ニ金庫へ差出シ通帳ニ金員ノ記入及金庫ノ印ヲ受クヘシ

一預金高三百圓以上ニ達シタルトキハ預ケ入ノ空ニ依リ將理公債證書ヲ購入ヲ請求スルコトヲ得

一預金高千圓ヲ超過スルトキハ大藏省ハ其超過額ヲ以テ將理公債證書ヲ購入スルコトアルヘシ

一預金ヲ以テ公債證書購入ノ通知ヲ受ケタルトキハ此通帳ヲ金庫へ差出シ購入代價ニ對スル預金仕拂ノ記入證印ヲ受クヘシ

一預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ預金取扱規程ニ定メタル領收證書ヲ金庫へ差出シ此通帳へ拂戻ノ記入證印ヲ受ケ領收證書ト引換ニ現金ヲ受取ル可シ

一預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシテ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ

一預ケ入ハ毎年六月此通帳ヲ金庫へ差出シ前項利子ノ記入ヲ受クヘシ

一預ケ入タル月及拂戻月ニハ利子ヲ附セズ

一預金ハ拾錢未滿ノ端金ニ利子ヲ附セズ

一氏名變換又ハ轉住セシトキハ成規ノ手續ヲナスヘシ

此通帳ハ賣買讀與又ハ借入貸入スルヲ得ス

氏 名

預金通帳 紙數表紙 共何枚紙

金庫 印

金庫 印



**第四號書式(用紙寸法表流板)**

購求符

一 整理公債證券額面高何圓也  
右ハ何種何額預金通帳ニ於ケル預金何圓ノ内ヲ以テ前記ノ公債證券購入保管相成度此段及  
購求候也

年月日	預	ケ	入	高	主任 者印	拂	戻	高	主任 者印

何 金 庫 印

取扱主任者 印

年 月 日 印

(社寺教會  
會社)印

府縣郡市町村番地 氏 名 印

**第五號書式**

公債證券購入通知書原符

一 整理公債證券額面高何圓也  
此購入代金何圓也

第何號

取扱金庫名	通帳記番號	預ケ人姓名	預入通帳 行名	預入通帳 年月日

(金額記入式)  
一金何圓也  
右之通りニ候也

大藏省主任局長氏名宛

(官廳積立金ハ官氏名印)  
(共同積立金ハ總代人二名共住所  
氏名等式ノ如ク連聲關印スヘシ)

年 月 日  
預金現在高

何 金 庫 印

制 印



第何號

公債證書購入通知書

一 整理公債證書額面何圓也  
此購入代金何圓也

右何某預金通帳何第何號ニ於ケル預金ヲ以テ購入済ニ付此段及通知候也

年 月 日

何金庫宛

大藏省主任局長 印

---

第何號

公債證書購入通知書

一 整理公債證書額面何圓也  
此購入代金何圓也

取 扱 金 庫 名

預 金 通 帳 記 番 號

右購入済ニ付通知ス

年 月 日

何某宛

大藏省主任局長 印

同書式裏面

表書公債證書ニ對スル中央金庫ノ保管證書正ニ領取候也

年 月 日

何金庫宛

何 某 印

第六號書式

第何號

保管證書原符

一 整理公債證書額面何圓也

内

何圓券

何第何番

何枚

同

何第何番

同

取 扱 金 庫 名	
保管證書發行年月日	
預ケ人姓名	

別 印



<p>第何號</p> <p>保管證書 此證書ハ所買譲與又ハ 借入貸入スルヲ得ス</p> <p>一 整理公債證券額面高何圓也</p> <p>内</p> <p>何第何番 何第何番 一枚</p> <p>何第何番 同</p> <p>(番號枚數ハ別冊ニ記入添付スルモ差支ナシ)</p> <p>何金庫取扱</p> <p>前貸公債證券何第何號預金通帳ニ於ケル預金ヲ以テ購入シ保管候也</p> <p>年 月 日 中央金庫 印</p> <p>何某宛</p>		<p>同書式裏面(保管證書普通書式)</p> <p>整理公債證券正ニ領收候也</p> <p>年 月 日 印</p> <p>(社寺教會 會社ノ印)</p> <p>府縣郡市町村番地 氏 名 印</p> <p>(官廳積立金ハ官氏名印) (共同積立金ハ總代人二名共住所 氏名等式ノ如ク連署印スヘシ)</p> <p>中央金庫宛</p>
---	--	--

<p>同書式裏面(保管證書ノ内拂戻ノ書式)(枚數多額ニシテ餘白ニ際メ誰キトキハ簡紙ヲナスヘシ)</p> <p>整理公債證券ノ内</p> <p>一 公債證券額面高何圓也 何第何番 何某宛</p> <p>右公債證券ハ請求ニ依リ内拂戻濟</p> <p>年 月 日 中央金庫 印</p>		<p>第七號書式(用紙寸法美濃板半折)</p> <p>領收證書</p> <p>一金何圓也</p> <p>前借金額何第何號預金通帳ニ於ケル預ケ金額ノ内正ニ領收候也</p> <p>年 月 日 印</p> <p>(社寺教會 會社ノ印)</p> <p>府縣郡市町村番地 氏 名 印</p> <p>(官廳積立金ハ官氏名印) (共同積立金ハ總代人二名共住所 氏名等式ノ如ク連署印スヘシ)</p> <p>何金庫宛</p>
<p>第八號書式(用紙寸法美濃板)</p> <p>請求書</p> <p>一 整理公債證券額面高何圓也</p> <p>保管證書番號</p>		<p>明治二十六年九月 省令 大藏省第十九號</p> <p>三四一</p>



第九號書式(用紙寸法美濃板)

請求書

公債證書額面何圓ノ内  
一整理公債證書額面高何圓也

何圓券 何第何番 一枚

前書公債證書(書留郵便又ハ何々運送ノ便ヲ以テ)拂戻相成度別紙保管證書(及郵便切手何錢)相添へ此段  
請求候也

年 月 日 印

中央金庫宛

(官廳積立金ハ官氏名印)  
(共同積立金ハ總代人二名共住所  
氏名等式)如ク連署調印スヘシ

府縣郡市町村番地 氏 名 印

中央金庫宛

保管證書番號

一枚

前書公債證書(書留郵便又ハ何々運送ノ便ヲ以テ)拂戻相成度別紙保管證書(及郵便切手何錢)相添へ此段  
請求候也

年 月 日 印

中央金庫宛

(官廳積立金ハ官氏名印)  
(共同積立金ハ總代人二名共住所  
氏名等式)如ク連署調印スヘシ

府縣郡市町村番地 氏 名 印

第十號書式(用紙寸法美濃板)

領收證書

一整理公債證書額面高何圓也

何圓券 何第何番 一枚

前書公債證書何第何號保管證書ノ内正ニ領收候也

年 月 日 印

中央金庫宛

(官廳積立金ハ官氏名印)  
(共同積立金ハ總代人二名共住所  
氏名等式)如ク連署調印スヘシ

府縣郡市町村番地 氏 名 印

中央金庫宛

請求書

何第何號預金通帳ニ於ケル預金今般悉皆拂戻ヲ受ケ候ニ付右ニ對スル利子仕拂相成度此段  
請求候也

年 月 日 印

何金庫宛

(官廳積立金ハ官氏名印)  
(共同積立金ハ總代人二名共住所  
氏名等式)如ク連署調印スヘシ

府縣郡市町村番地 氏 名 印



**第十二號書式**

預金利子仕拂通知書原符

第何號

一金何圓也

取扱金庫名

現金仕拂ヲ爲ス日本銀行本支店又ハ其代理店名	<input type="text"/>
仕拂通知書發行年月日	<input type="text"/>
日本銀行(案内書送付年月日)	<input type="text"/>

何年何月ヨリ 何年何月マデ 利子額

右ノ通りニ候也 何金庫

(案内書ノ式) 前書ノ金額ハ本日第何號預金利子仕拂通知書發行候ニ付領收シト引換ニ受取人ニ交付スルコトヲ要ス

印 年 月 日

日本銀行本支店 又ハ其代理店

大蔵省主任局長

**同書式裏面**

預金利子仕拂通知書

第何號

一金何圓也

現金仕拂ヲ爲ス日本銀行本支店又ハ其代理店名

前書ノ金額現金仕拂店ニ就テ受取ヘシ

年 月 日 何某宛

大蔵省主任局長

表書之金額正ニ領收候也

年 月 日

府縣郡市町村番地 氏 名

(社寺教會 會社ノ印)

(官廳積立金ハ官氏名印)

(共同積立金ハ總代人二名共住所氏名等式ノ如ク連署調印スヘシ)



第十三號書式

公債證券利子通知書原符

一金何圓也

何年何月渡利子

取 扱 金 庫 名	
保 管 證 書 番 號	
公 債 證 書 額 面	
公 債 證 書 預 け 人 姓 名	
利 子 通 知 書 發 行 日	

第何號

公債證券利子通知書

一 金 何 圓 也

何年何月渡利子

保 管 證 書 番 號	
公 債 證 書 額 面	
取 扱 金 庫 名	

第何號

公債證券利子通知書

一 金 何 圓 也

何年何月渡利子

第十四號書式(用紙減額板中折)

右金額ハ預金購入公債證券ノ利子トシテ領收シ預ケ金額ニ元加フ爲シタルニ付預金通帳ニ此書面ヲ添ヘ取扱金庫へ送附シ金額ノ記入ヲ受クヘシ此段通知ス

年 月 日

何 某 宛

中 央 金 庫 印

預金取扱金庫換申込書

何地金庫何第何號預金通帳ニ於ケル預金ノ儀(現在高ハ何圓也)自今何地金庫ニ於テ受渡御取扱相成度此段及請求候也

年 月 日 印

(社寺教會)  
(會社ノ印)

府縣郡市町村番地

氏 名 印

(官廳積立金ハ官氏名印)  
(共同積立金ハ總代人二名共住所)  
(氏名等式)如ク連署調印スヘシ

何金庫宛

○大藏省令第二十號

明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年九月二十日

大藏大臣渡邊國武

保管物取扱規程

第一條 明治二十三年勅令第二號明治二十六年勅令第七十號ニ依ル金錢有價證券ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 現金又ハ有價證券ハ權利者ヨリ寄托スルモノト官廳ヨリ寄托スルモノト二種ニ分チ之



ヲ取扱フヘシ

第三條 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄托セシムルトキハ第一號書式ノ寄托通知書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第四條 權利者ハ現金又ハ有價證券ニ前條ノ寄托通知書ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ

第五條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第六條 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄托スルトキハ第三號書式ノ送付書ヲ製シ之ヲ現金又ハ有價證券ニ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ

第七條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ領收證書ヲ製シ之ヲ寄托官廳ヘ交付スヘシ

第八條 官廳ニ於テ數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取廻メ寄托スルトキハ其送付書ニ第五號書式ノ仕譯書ヲ添付スヘシ

但權利者不分明ナル者ハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書ニ記入スヘシ

第九條 取扱官廳ハ本規程ニ依リ現金又ハ有價證券等受渡ノ證明ニ供スル爲メ豫メ其屬及取扱主任官ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スヘシ應印ノ更改主任官ノ改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テモ亦同シ有價證券ニ屬スル利札交付ノトキ其受渡ヲ證明スル爲メ權利者ハ有價證券寄托ノ際印鑑ヲ金庫ヘ差出シ置クヘシ

第十條 權利者ニ於テ其寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲ爲シタル保管證書ヲ得テ金庫ヘ差出シ之カ拂戻ヲ請求スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書アル保管證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十二條 權利者ニ於テ官廳ヨリ寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シ其取扱官廳ニ請求スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ審査シ相違ト認ムルトキハ金庫ニ宛タル第六號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ヘ差出シ現金又ハ證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ハ前條ノ拂渡證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂渡ヲ請求スル者アルトキハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十四條 政府ノ所有ニ歸シタル保管金ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一 保管證書ヲ發シタルモノハ取扱官廳ニ於テ該證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ歳入トシテ金庫ヘ納付セシムヘシ

一 保管證書ヲ發セサルモノハ大藏大臣ノ分遣ニ依リ金庫ニ於テ歳入ヘ編入スヘシ

第十五條 取扱官廳ニ於テ保管金ノ幾分ヲ歳入ト爲シ又ハ幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ金庫ニ請求スヘシ

第十六條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ新ニ保管證書ヲ製シ舊保管證書ト交換スヘシ

第十七條 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之カ計算ヲ爲スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子ノ拂渡ヲ請求スルトキハ第七號書式ノ請求書ヲ取扱金庫ヘ差出スヘシ

第十八條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第八號書式ノ通知書ヲ製シ取扱官廳ヲ經テ權利者ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證明ヲ爲シ之ヲ共通通知書ニシテ



記帳シタル日本銀行本支店又ハ其代理店へ差出シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ  
 第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ其寄託シタル有價證券ニ關スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交  
 付ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ノ請求書ヲ金庫へ差出スヘシ  
 金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ徴シ之ト引換ニ利札ヲ交付ス  
 へシ  
 第二十條 保管證書又ハ領收證書ヲ亡失シタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ保管ノ證明方ヲ金庫ニ  
 請求スルトキハ金庫ニ於テハ第十一號書式ノ證明書ヲ製シ之ヲ官廳又ハ權利者へ交付スヘシ  
 保管證書又ハ領收證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルカ爲メ官廳又ハ權利者  
 ヨリ之カ引換ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ハ更ニ保管證書又ハ領收證書ヲ製シ舊證書ト交換ス  
 へシ

第一號書式(有價證券ノ種類多數ニテ數紙ヲ用ユルトキハ割印スヘシ)

寄託通知書

(金銀ト有價證券トハ各別ニ割製スヘシ)  
 府縣郡市町村番地  
 (官吏ノ職務上ニ係ルモノハ職名ヲ記スヘシ)  
 何 某

一金何圓也  
 又ハ  
 一整理公債證書(又ハ何々)額面何圓也  
 內附  
 何圓券 一枚  
 何第何番 同

(有價證券多數ナルトキハ內附ニ別ニ内附書ヲ添付スルモ妨ナシ)  
 (此場合ニハ本文「内附」トアル箇所へ別紙内附ノ通リト記入スヘシ)  
 保管スヘキ法律規則ノ條項  
 保管ノ事由

第二號書式(有價證券ノ種類多數ニテ數紙ヲ用ユルトキハ割印スヘシ)

第何號

保管證書原券  
 何年何月何日何第何號  
 保管證書金 何圓 內分割(分割ノトキノ例)  
 保管證書何々額面何圓 府縣郡市町村番地  
 (官吏ノ職務上ニ係ルモノハ職名ヲ記スヘシ)  
 何 某

何年何月何日何第何號  
 保管證書金 何圓 汚染毀傷ニ付再渡(再渡ノ例)  
 一金何圓也  
 又ハ  
 一整理公債證書(又ハ何々)額面何圓也  
 內附  
 何圓券 一枚  
 何第何番 同

(有價證券多數ナルトキハ內附ニ別ニ内附書ヲ添付スルモ妨ナシ)  
 (此場合ニハ本文「内附」トアル箇所へ別紙内附ノ通リト記入スヘシ)  
 取扱官職名

寄託年月日  
 拂戻年月日

利率(利子ヲ付スヘキモノノ例)  
 右保管ノ爲メ納付セシメ候也

年 月 日  
 何 官 氏 名 印  
 何 金 庫 宛











第七號書式(用紙寸法表)

利子請求書

何種取扱トシテ寄付致置候身元保證金何圓ニ對スル利子仕拂相成候請來候也

年 月 日 何金取宛 官 氏 名 印

(利子記入式)

一金何圓也 何年何月ヨリ 利子額

右之通りニ候也 何年何月マデ

年 月 日 何金取 印

(案内書ノ式)

前書ノ金額ハ本日第何號保管金利子仕拂通知書發行候ニ付領收證書ト引換ニ受取人ニ交付スルコトヲ要ス

別 年 月 日 日本銀行本支店宛 又ハ其代理店宛

大藏省主任局長 印

第八號書式

保管金利子仕拂通知書原符

第何號

一金何圓也

取 扱 官 廳 名	
取 扱 金 庫 名	
儲 利 者 名	

現金仕拂ヲ爲ス日本銀行本支店又ハ其代理店名	
年 月 日 發行	

保管金利子仕拂通知書

第何號

取 扱 官 廳 名	
取 扱 金 庫 名	

一金何圓也

現金仕拂ヲ爲ス日本銀行本支店又ハ其代理店名

前書ノ金額ハ現金仕拂店ニ就テ請取ルヘシ

年 月 日 何 印

大藏省主任局長 印

官 氏 名 印

何某宛



同書式裏面

表書之金額正ニ領收候也  
年 月 日  
日本銀行本支店宛  
又ハ其代理店

權利者  
氏 名 印

第九號書式(用紙寸法美濃板)

請求書

何年何月渡  
一何々公債證書何圓券附屬利札  
又ハ

何枚

一何々  
附屬利札  
右何第何號保管證書(又ハ領收證書)ニ於ケル有價證券ノ利札前書ノ通り下渡相成度請求候也

何枚

何 印

官 氏 名 印

又ハ  
府縣郡市町村番地

權利者氏名 印

年 月 日

何金庫宛

第十號書式(用紙寸法美濃板)

領收證書

何年何月渡  
一何々公債證書何圓券附屬利札  
又ハ

何枚

一何々 附屬利札 同  
右ハ何第何號保管證書(又ハ領收證書)ニ於ケル有價證券ノ利札前記ノ通り正ニ領收候也

何 印

官 氏 名 印

又ハ

何 某 印

年 月 日

何金庫宛

第十一號書式(有價證券種類多數ニテ數紙ヲ用ニルトキハ別印スヘシ)

證明書

(證明書發行ノ旨ヲ保管證書又ハ領收證書原符ニ記入シ置クヘシ)

一金何圓也

又ハ  
一整理公債證書(又ハ何々)額面何圓也

内附

何第何番

一枚

有價證券多數ナルトキハ内附ニ代フルニ別ニ内附書ヲ添付スルモ妨ケナシ  
(此場合ニハ本文(内附)トアル箇所(別紙内附)ノ通りト記入スヘシ)

(取扱官署名權利者ノ氏名及期滿失効ノ年月日ノ如キハ保管證書又ハ領收證書)  
(得ノ例ニ準シ記スヘシ)

右ハ何年何月何日付何第何號保管證書(又ハ領收證書)亡失ノ旨ヲ以テ證明方請求ニ依リ前書ノ物件費金庫ニ於テ領收シタルニ相違ナキコトヲ茲ニ證明ス

年 月 日

何 金 庫 印

何 印  
又ハ官氏名宛  
又ハ何某宛



○大藏省令第二十一號

明治二十三年大藏省令第三十九號供託物取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年九月二十日

大藏大臣 渡邊 國武

供託物取扱規程

- 第一條 明治二十三年勅令第四百十五號ニ依リ保管スル供託物ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱モノトス
- 第二條 供託者ニ於テ金錢有價證券ヲ寄託セントスルトキハ其物件ニ左ノ事項ヲ記載シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但金錢ト有價證券トハ各別ニ供託書ヲ調製スヘシ
- 第一 供託者ノ住所氏名若シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ其官廳名官氏名
- 第二 金錢ハ其金額  
有價證券ハ其種類記號番號券面ノ金額枚數  
但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製添付スルモ妨ケナシ
- 第三 供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項  
供託ノ事由  
但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲ爲ストキハ尙其件名及其裁判所名ヲ記スヘシ
- 第四 年月日
- 第三條 金庫ニ於テ前條ノ供託書ヲ受ケタルトキハ其物件ヲ供託書ニ照シテ之ヲ受領シ其一通ニ受領ノ旨記載捺印シ供託者ヘ交付スヘシ
- 第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄託スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ金錢ハ寄託スヘキ金庫所在ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ送金手形若ク

ハ爲換券等ヲ以テ寄託スルコトヲ得

- 第五條 金庫ニ於テ前條ノ送金手形若クハ爲換券ヲ以テ寄託ヲ受ケタルトキハ之ヲ其現金ニ交換シタル後第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 供託者ニ於テ供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ分割シタル供託書各一通ヲ調製シ第二號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ
- 第七條 金庫ニ於テ前條ノ分割請求ヲ受ケタルトキハ更ニ差出シタル供託書ニ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲シ新受領證ヲ舊受領證ト引換ニ交付スヘシ
- 第八條 供託者ニ於テ有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ要スルトキハ第三號書式ノ請求書ニ通テ調製シ委任狀ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ
- 第九條 金庫ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リタルトキハ償還金ハ代供託物トシ利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ領收シ請求書ノ一通ニ受領ノ旨記載捺印シ請求者ヘ交付スヘシ
- 第十條 供託者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ請求スルトキハ其事由ヲ記載シタル第四號書式ノ請求書ニ第三條及九條ノ受領證ヲ添ヘ金庫ヘ請求スヘシ  
其全部拂戻ノトキハ式ノ如ク與存ヲ爲シタル受領證幾分拂戻ノトキハ第五號書式ノ受取證ヲ差出スヘシ但供託者ニ於テ返戻ヲ受ケル場合ニ官廳ノ證明書ヲ要スルモノハ其證明書ヲ第四號書式ノ請求書ニ添付スヘシ
- 第十一條 裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ調製シ之ヲ受取人ヘ交付スヘシ
- 第十二條 受取人ニ於テ前條ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ其末尾ニ式ノ如ク領收ノ旨記載捺印シ



之ヲ金庫へ差出シ拂渡ヲ受クヘシ  
 第十三條 金庫ニ於テ第十條及第十二條ノ拂渡又ハ返戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託物ヲ受取人へ交付スヘシ  
 金庫ニ於テ裁判所ノ通知ニ依リ供託物ノ全部ヲ一時ニ拂渡ストキハ式ノ如ク與書ヲ爲シタル第三條及第九條ノ受領證ト引換ニ供託物ヲ受取人へ交付スヘシ  
 金庫ニ於テ裁判所ノ通知ニ依リ供託物ノ内幾分ヲ拂渡ストキハ其送付ヲ受ケタル第三條及第九條ノ受領證ニ式ノ如ク内渡ノ旨記入捺印シ受取人ヨリ第五號書式ノ受取證ヲ徴シ其供託物ヲ交付スヘシ  
 第十四條 供託者ニ於テ明治二十六年十一月三十日以前ニ屬スル供託金ノ利子ヲ受クルニハ其元金仕拂ノ後テ第八號書式ノ請求書ヲ金庫へ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省へ進達スヘシ  
 第十五條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第九號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ請求人へ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行へ送付スヘシ  
 第十六條 請求人ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行木支店又ハ其代理店へ差出シ現金ノ仕拂ヲ受クヘシ  
 第一號書式(用紙寸法表裏板)

供託書

(金銀ト有價證券トハ各別ニ調製スヘシ)  
 府縣郡市町村番地 某  
 供託者 何  
 官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官職名及官氏名ヲ記シ  
 職スルモノトス  
 代人ヲ用ニルトキハ其住所氏名ヲ書加フルモノトス

一 金何圓也  
 又ハ  
 一 何々公債證券額何圓也

何第何番  
 又ハ何第何番ヨリ  
 第何番マデ

何 枚

又ハ  
 一 何銀行(又ハ何會社)株券額何圓也  
 又ハ  
 一 何々  
 供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項  
 供託ノ事由  
 裁判中ニ係ルモノハ其件名及裁判所名  
 前書ノ物件寄託致度請求候也  
 (分別ヲ要スルトキ差出ス供託書ハ前書ノ物件ノ下ニ)  
 (何年何月何日何第何號受領證ノ内分割ノ上)ノ文字ヲ加フ

年 月 日 何 某 印

何 金 庫 宛  
 (受領ノ書式)  
 第何號  
 右受領ス

年 月 日 何 金 庫 宛  
 (與書ノ式)  
 前書物件正ニ領收候也

年 月 日 何 金 庫 宛  
 (内渡ノ書式)  
 一 金何圓也  
 又ハ  
 一 何々公債證券額何圓也

府縣郡市町村番地 某 印  
 受取人 何 某 印

何第何番  
 又ハ何第何番ヨリ  
 第何番マデ

何 枚



<p>又ハ 一何銀行(又ハ何會社)株券領面何圓也 又ハ 一何 一何類多數ナルトキハ別ニ内附書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ本表高書ノ 箇所(公債證券其他類面何圓也別紙内附書ノ通ト記入シ内附書ト別印スヘシ) 右供託物何年何月何日内渡済 何 金 庫 印</p>		<p>何年何番 何第何番ヨリ 第何番マデ 同 同</p>
<p>第二號書式(用紙寸法美濃板半折) 請 求 書 (供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ作ルヘシ) 今般何々ノ事山ニ據リ何第何號受領證ノ物件別紙供託書ノ通り分割相成度請求候也 府縣郡市町村番地 何 某 印</p>		
<p>第三號書式(用紙寸法美濃板(紙數二枚以上ニ及フトキハ別印スヘシ)) 請 求 書 (代供託物ト附屬供託物トハ 各別ニ請求書ヲ別製スヘシ) 府縣郡市町村番地 供託者 何 某</p>		
<p>一金何圓也 一何々公債證券(又ハ何銀行株券)又ハ何會社株券何年何月(又ハ何期)派利子(又 ハ附金)又ハ何年何月何日何第何號受領證ノ分 前書金額御受取相成度別紙委任狀相添請求候也</p>		

<p>年 月 日 何 金 庫 宛 (受領ノ書式 別紙何號 右代供託物(又ハ附屬供託物)トシテ受領ス (與書ノ式) 前書金額正ニ領收候也 府縣郡市町村番地 何 某 印</p>		<p>右 何 某 印</p>
<p>(内渡ノ書式) 獎券金額ノ内 一金何圓也 右供託金何年何月何日内渡済 (受領證ノ餘白ニ記入シ別紙ヲナスヘシ) 何 金 庫 印</p>		
<p>第四號書式(用紙寸法美濃板半折) 請 求 書 (供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ別製スヘシ) 今般何々ノ事由ニ據リ何第何號供託受領證ノ物件(府縣郡市町村番地何某(持渡)又ハ(返 戻)相成度請求候也 府縣郡市町村番地 供託者 何 某 印</p>		



第五號書式(用紙寸法差渡板)

領收證書

何年何月何日何第何號供託受領證ノ内  
一金何圓也

又ハ  
何々公債證書額面何圓也

又ハ  
何銀行(又ハ何會社)株券額面何圓也

又ハ  
一何々

前書物件正ニ領收候也

年 月 日

何金庫宛

府縣郡市町村番地  
受取人 何 某 印

(金錢有價證券本供託物代供託物附屬供託物ハ總テ各別ニ領收證書ヲ關與スヘシ)

何第何番  
又ハ何第何番ヨリ  
第何番マテ  
何 枚

又ハ何第何番  
第何番ヨリ  
何 枚

同

第六號書式(用紙寸法差渡板)

請求書

何年何月何日何第何號受領證  
一金何圓也

府縣郡市町村番地  
供託者 何 某

(供託受領證一葉毎ニ請求書ヲ關與スヘシ)

又ハ  
一何々公債證書額面何圓也

又ハ  
一何銀行(又ハ何會社)株券額面何圓也

又ハ  
一何々

内  
金何圓也

又ハ  
何々公債證書額面何圓也

又ハ  
何銀行(又ハ何會社)株券額面何圓也

又ハ  
一何々

事由

前書内附ノ通り物渡證書發行候ニ付分割物渡スモトヲ要ス依テ別紙供託受領證ヲ添ヘ請求候也

年 月 日

何金庫宛

府縣郡市町村番地  
受取人 何 某

同

何第何番  
又ハ何第何番ヨリ  
第何番マテ  
何 枚

又ハ何第何番  
第何番ヨリ  
何 枚

同

官 廳 名 印

官 氏 名 印



第七號書式(用紙美濃板)

拂渡證書

何年何月何日何第何號供託受領證ノ内  
一金何圓也

又ハ  
一何々公債證書額面何圓也

又ハ  
一何銀行(又ハ何會社)株券額面何圓也

又ハ  
一何々

右物件府縣郡市町村番地何某(拂渡スコトヲ要ス)

年 月 日 何金庫宛

(奥書ノ式)  
前書物件正ニ領收候也

年 月 日 何金庫宛

府縣郡市町村番地 何 某

供託者 何 某

又ハ何第何番ヨリ 何 枚  
又ハ何第何番マテ 何第何番ヨリ 何 枚  
又ハ何第何番ヨリ 何 枚  
又ハ何第何番マテ 何 枚

同 同

官廳名 印 官氏名 印

府縣郡市町村番地 何 某 印

受取人 何 某 印

何年何月何日何第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利子仕拂相成度請求候也

府縣郡市町村番地 何 某 印

受取人 何 某 印

利子請求書

何年何月何日 何年何月ヨリ 何年何月マテ 利子額

右之通りニ候也

年 月 日 何金庫 印

(案内書ノ式)  
前書ノ金額ハ本口第何號供託金利子仕拂通知書發行候ニ付領收證書ト引換ニ受取人ニ交付スルコトヲ要ス

年 月 日 何金庫 印

日本銀行本支店宛 又ハ其代理店 大藏省主任局長 印

通知書 印刷印

通知書 印刷印

第九號書式

供託金利子仕拂通知書原存

第何號

一金何圓也

取 扱 金 庫 名

現金仕拂ヲ爲ス日本銀行本支店又ハ其代理店名

受 取 人 名

仕 拂 年 月 日

發行年 月 日

例 印刷印

(利子記入式)  
一金何圓也 何年何月ヨリ 何年何月マテ 利子額

右之通りニ候也

年 月 日 何金庫 印

(案内書ノ式)  
前書ノ金額ハ本口第何號供託金利子仕拂通知書發行候ニ付領收證書ト引換ニ受取人ニ交付スルコトヲ要ス

年 月 日 何金庫 印

日本銀行本支店宛 又ハ其代理店 大藏省主任局長 印

通知書 印刷印



供託金利子仕拂通知書

第何號

取扱金庫名

一金何圓也

現金仕拂ヲ爲ス日本銀行本支店又ハ其代理店名

前書ノ金額現金仕拂店ニ就テ請取ルヘシ

年 月 日

何某宛

大藏省主任局長 印

同書式裏面

表背之金額正ニ領取候也

年 月 日

日本銀行本支店又ハ其代理店

府縣郡市町村番地 受取人 何 某 印

○大藏省令第二十二號

本年十月三十一日迄ニ大藏省預金局ニ於テ直接保管ヲ爲シタル預金保管金供託金及有價證券ハ本年十一月一日ヨリ中央金庫へ引繼キ之カ保管出納ハ同金庫ニ於テ取扱フヘシ

大藏大臣渡邊國武

○文部省令第十三號

明治二十四年文部省令第十四號小學校教科用圖書審查等ニ關スル規則第一條左ノ通改正ス

文部大臣井上毅

明治二十六年九月二十日

- 第一條 小學校圖書審查委員ハ府縣知事之ヲ命ス共ノ人員左ノ如シ
- 一 府縣高等官及學務擔任官吏各一名
  - 二 府縣參事會員二名但府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ府縣會常置委員二名
  - 三 尋常師範學校校長
  - 四 尋常中學校長一名
  - 五 尋常師範學校教員二名
  - 六 小學校教員三名乃至五名
- 審査委員長ハ府縣高等官ニシテ審査委員タルモノヲ以テ之ニ充ツ

〔參照〕

文部省令第十四號小學校教科用圖書審查等ニ關スル規則(明治二十四年十一月十七日)抄録

第一條 小學校圖書審查委員ハ左ノ數ニ從ヒ府縣知事之ヲ命スヘシ

- 一 府縣官吏一名
  - 二 府縣參事會員二名
  - 三 尋常師範學校校長
  - 四 尋常師範學校教員二名
  - 五 小學校教員三名乃至五名
- 府縣知事ハ審査委員中ニ就キ委員長ヲ命スヘシ

○農商務省令第十五號

明治二十五年農商務省令第六號鐵業條例施行細則中左ノ通改正追加ス

農商務大臣伯爵後藤象二郎

明治二十六年九月二十日



第七條第二項ヲ左ノ如ク改ム

地方長官前項ノ届書ヲ受取リタルトキハ試掘又ハ採掘ノ事業カ公益ニ害アルヤ否ヲ取調ヘ届書ヲ受取リタル日ヨリ三十日以内ニ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長ニ其意見ヲ通知シ採掘ニ就テハ農商務大臣ニ其意見ヲ上申スヘシ

第三十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十六條 明治二十六年五月十九日以前(明治二十六年五月十九日農商務省令第十號發布以前)ニ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル者及ヒ試掘願書採掘願書又ハ其添付圖面ヲ修正シタル者ニシテ本則第七條第一項ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ所轄鑛山監督署長ハ二十日以内ノ期限ヲ定メ出願人ニ右届書ノ差出ヲ命スヘシ  
出願人ニ於テ右期限内ニ前項ノ届書ヲ差出サ、ルトキハ其出願ヲ無効トス

第二十六條ヲ第三十七條トス

(参照)

農商務省令第六號鑛業條例施行細則(明治二十五年三月十六日)抄録  
第七條 試掘又ハ採掘ヲ出願シタルトキ及ヒ試掘願書採掘願書又ハ其添付圖面ヲ修正シタルトキハ五日以内ニ其書類又ハ圖面ノ寫ヲ添ヘ鑛山所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ  
地方長官試掘又ハ採掘ノ事業カ公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長ニ其意見ヲ通知シ採掘ニ就テハ農商務大臣ニ其意見ヲ上申スヘシ  
地方長官ハ試掘願書採掘願書又ハ修正圖面ニ記載シタル出願地ノ郡市町村大字小字名ヲ土地發掘者クハ其他ノ公簿ニ照シ其異同ヲ前項ノ意見ト同時ニ通知若クハ上申スヘシ

○大藏省令第二十三號

明治二十六年十月三十一日以前ニ發シタル預金、保管金、供託金ノ利子仕拂切符ニシテ同日マテ未仕拂ニ係ルモノハ該切符ニ記載ノ場所ニアル日本銀行木支店出張所代理店ニ於テ之レカ現金ヲ仕

拂フヘシ

明治二十六年九月二十二日

大藏大臣 渡邊 國武

○外務省令第二號

京都府丹後國宮津港ヨリ露領浦潮斯德及朝鮮國へ渡航スル者ニ限リ京都府廳へ願出海外旅券ヲ受クルコトヲ得

明治二十六年九月二十五日

外務大臣 陸奥 宗光

○司法省令第十五號

本年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改定ス

- 一 靜岡地方裁判所管内沼津區裁判所戸田出張所管轄若澤郡西浦村ヲ沼津區裁判所ノ管轄ニ編入ス
- 一 甲府地方裁判所管内飯沼區裁判所靜川出張所管轄南巨摩郡西山村ヲ飯沼區裁判所ノ管轄ニ編入ス
- 一 長野地方裁判所管内飯田區裁判所管轄下伊那郡大島村山吹村ヲ飯田區裁判所河野出張所ノ管轄ニ編入ス
- 一 新潟地方裁判所管内高田區裁判所飯田出張所管轄中頸城郡根越村ヲ高田區裁判所ノ管轄ニ編入ス
- 一 京都地方裁判所管内園部區裁判所檜山出張所管轄船井郡竹野村ヲ園部區裁判所ノ管轄ニ編入ス
- 一 高知地方裁判所管内須崎區裁判所別府出張所管轄高岡郡大桐村ヲ須崎區裁判所佐川出張所ノ管轄ニ編入ス
- 一 山形地方裁判所管内新庄區裁判所管轄最上郡真室川村ヲ新庄區裁判所金山出張所ノ管轄ニ編入ス

明治二十六年九月二十八日

司法大臣 芳川 顯正



○司法省令第十六號

明治二十四年五月司法省令第三號判事檢事登用試験規則第五條及第八條ヲ左ノ通改正ス

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限

ル  
一 官立學校及司法大臣ニ於テ指定シタル公私立ノ學校ニ於テ三年以上法律學ヲ修メタル證書  
ヲ有スル者

二 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第八條 試験志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 履歷書

二 身分年齢及兵役ニ關スル證明書

三 第五條ニ定メタル要件ノ證明書

試験志願者ハ試験手数料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ但其手数料ハ登記印紙ヲ用非之ヲ志願書ニ貼

付スヘシ  
手数料ハ志願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セズ

明治二十六年十月九日 司法大臣 芳川顯正

〔參照〕

司法省令第三號判事檢事登用試験規則(明治二十四年五月十五日)抄録

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ノ各項ノ一ニ該ル者ニ限ル

一 第一及第三高等中學ニ於テ法科ヲ卒業シタル者

二 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

三 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第八條 試験志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 履歷書

明治二十六年十月 官令 司法省令第十六號



- 二 身分年齢及兵役ニ關スル證明書
- 三 第五條ニ定メタル要件ノ證明書

○内務省令第十二號

衛生試驗所ニ於テ交付シタル報告書ノ寫ヲ請求スル者ハ一枚ニ付手数料金拾錢其翻譯文ヲ請求スル者ハ一通ニ付手数料金貳拾錢乃至金參圓ヲ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

明治二十六年十月十一日

内務大臣 齋井上 馨

○逕信省令第十七號

明治二十三年十一月省令第二十三號郵便貯金條例施行細則第五十條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加ス

明治二十六年十月二十日

逕信大臣 齋黑田清隆

第五十一條 天災其他非常ノ場合ニ於テハ特ニ本則ニ定メタル手續ヲ省略シテ取扱ハシムルコトアルヘシ

○逕信省令第十八號

明治十九年四月省令第四號西洋形船舶検査細則左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年十月二十一日

逕信大臣 齋黑田清隆

西洋形船舶検査細則

第一條 本則ハ西洋形船舶検査規則ニ據リ検査ヲ受クヘキ船舶ニ適用ス

第二條 登録船免狀ヲ受有スル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ直チニ最寄船舶司檢所ニ差出シ検査ヲ受クヘシ但近海航路以下ノ船舶ニシテ其航路定限内ニ船舶司檢所ノ設置ナキトキハ船籍地方官廳ヲ經由シ其願書ヲ逕信省ニ差出スヘシ

第三條 登録船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ船籍地方官廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

第四條 検査官吏ニ於テ船舶航行ニ適當ト認メタルトキハ其旨ヲ逕信省若クハ地方官廳ニ報告スヘシ

逕信省若クハ地方官廳ニ於テハ前項ノ報告ニ據リ第二號書式ノ検査證書ヲ調製シ之ヲ検査出願人ニ附與ス但船舶司檢所ニ於テ検査シタル船舶ノ検査證書ハ其船舶司檢所ヲ經テ附與ス

第五條 第四條ノ検査證書ヲ受領セサル以前ニ於テ船舶ヲ航行ノ用ニ供セントスルトキハ検査官吏ニ検査假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ検査官吏ハ第三號書式ノ検査假證書ヲ調製シ検査出願人ニ附與ス

検査假證書ノ效用ハ其日附ヨリ起算シ三箇月以内トス但本證書ヲ受領シタルトキハ直チニ返納スヘシ

第六條 検査證書ハ検査規則第十條ニ據リ船内ニ於テ衆人ノ最モ見易キ場所ニ掲示シ旅客船ニ於テハ尙ホ其寫ヲ調製シ各客室ニ掲示スヘシ

第七條 航行シ得ヘキ場所ノ定限ニ據リ船舶ヲ分チテ左ノ四種トス

第一 外國航船 内外國ノ諸港ニ航通シ得ヘキモノ

第二 内國航船 内國各地及朝鮮國南界ノ鴨綠江以北露領黑龍江ニ至ル沿岸竝ニ薩嚙噠島諸港ニ航通シ得ヘキモノ

第三 近海航船 内國沿岸ノ近港間又ハ内地ト離島トノ間ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第四 平水航船 内國水上其他靜穩ノ海上ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第八條 第七條ニ掲ケタル近海航船及平水航船ノ航路定限ハ船體、汽機、汽鐘ノ現状及季節ニ據リ左ノ區域以内ニ於テ検査官吏之ヲ定ム

近海航船航路區域

明治二十六年十月 省令 逕信省第十八號



- 第一 安房國野島崎ヨリ伊豆國大島及神子元島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内
- 第二 三河國伊真湖崎ヨリ志摩國大王崎ニ至ル線内及大王崎ヨリ紀伊國大島汝岬ヲ經テ日ノ岬ニ至ル線内但第三區内ニ逓通スルコトヲ得
- 第三 紀伊國日ノ岬ヨリ阿波國伊島ニ至ル線内伊豫國佐田崎ヨリ豐後國地藏崎ニ至ル線内及筑前國岩屋崎ヨリ長門國觀音崎ニ至ル線内但第二區又ハ第四區ノ一區内ニ逓通スルコトヲ得
- 第四 豐後國地藏崎ヨリ伊豫國佐田崎ニ至ル線内及土佐國伊佐岬ヨリ日向國細島ニ至ル線内但第三區内ニ逓通スルコトヲ得
- 第五 土佐國室戸崎ヨリ伊佐岬ニ至ル線内
- 第六 日向國都井崎ヨリ大隅國種子島屋久島列島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内
- 第七 薩摩國黒瀬戸ヨリ肥前國五島ヲ經テ平戸海峡ニ至ル線内
- 第八 出雲國日ノ岬ヨリ隱岐列島ヲ經テ伯耆國泊ニ至ル線内
- 第九 丹後國經ヶ崎ヨリ越前國安島崎ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ加賀國金石迄延長スルコトヲ得
- 第十 能登國祿剛崎ヨリ佐渡ヲ經テ羽後國酒田ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ羽後國船川迄延長スルコトヲ得
- 第十一 陸前國花淵崎ヨリ金花山ヲ經テ陸中國久慈ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ陸奥國鮫延延長スルコトヲ得
- 第十二 陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山岬ヲ經テ膽振國室蘭ニ至ル線内及陸奥國權現崎ヨリ小島ヲ經テ渡島國江差ニ至ル線内但海上靜穩ノ季節ニ限リ羽後國土崎若クハ日高國襟裳崎迄延長シ又ハ第十三區ニ逓通スルコトヲ得

- 第十三 後志國辨慶岬ヨリ神威崎ヲ經テ小樽灣ニ至ル線内
- 第十四 釧路國釧路ヨリ根室國納沙布岬及野付ヲ經テ知床岬ニ至ル線内及其線内ノ沿岸ヨリ千島國國後島色丹島間
- 第十五 琉球本島ヨリ沖繩諸群島間
- 第一 湖川港内
- 第二 相模國觀音崎ヨリ上總國富津ニ至ル線内
- 第三 駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内
- 第四 三河國伊真湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内
- 第五 紀伊國宮崎ヨリ加太港ニ至ル線内
- 第六 紀伊國苦ヶ島海峡及播磨國明石海峡以內ノ沿岸
- 第七 播磨國室津ヨリ小豆島大角崎ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及讃岐國三崎ヨリ備後國鞆ニ至ル線内
- 第八 備後國鞆ヨリ伊豫國今治ニ至ル線内及伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島ヲ經テ上ノ關ニ至ル線内
- 第九 豐前國今津ヨリ長門國木山鼻ニ至ル線内及筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内
- 第十 筑前國西浦崎ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十一 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神樂島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内
- 第十二 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内
- 第十三 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内



- 第十四 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内
- 第十五 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内
- 第十六 肥後國天草島牛深港及黒瀬戸以內
- 第十七 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内
- 第十八 出雲國地蔵岬ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内
- 第十九 丹後國笹崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内
- 第二十 越後國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内
- 第二十一 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内
- 第二十二 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内
- 第二十三 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島登ノ崎ニ至ル線内
- 第二十四 渡島國函館山尾花岬ヨリ葛登支岬ニ至ル線内
- 第二十五 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内
- 第二十六 後志國日和山ヨリ神溪岬ニ至ル線内
- 第二十七 釧路國尻羽崎ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内
- 第二十八 近海航船又ハ平水航船ヲ第八條ニ掲ケル航路區域外ニ航行セシメントスルトキハ船主ヨリ最寄船泊所(地方官廳ノ検査ヲ受ケヘキ船泊ハ其地方官廳)ヲ經由シテ逓信省ニ願出ヘシ
- 第二十九 左ノ場合ニ於テハ検査證書ヲ受有セスシテ航行シ又ハ検査證書ニ記載ノ航路定限及期限ヲ超ヘテ航行スルモ妨ケナシ
- 第一 船泊所檢所々在地外ノ地ニ於テ製造、修繕若クハ購入シタル船泊検査ヲ受クル爲メ特ニ船泊所檢所々在地其他検査ヲ受ケヘキ場所マテ航行スルトキ
- 第二 航路定限内ノ地ニ船泊所檢所ノ設ケナキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ特ニ船泊所檢所々

在地其他検査ヲ受ケヘキ場所マテ航行スルトキ

第三 船體若クハ汽機、汽鐘其他要部修繕ノ爲メ検査官吏ノ認可ヲ受ケ工場所在地マテ航行スルトキ

第四 航路定限外ノ地ニ於テ検査ヲ受ケタル船泊検査官吏ノ認可ヲ受ケ其航路定限内ノ地マテ航行スルトキ

第十一條 船内旅客ノ定員ハ検査官吏ニ於テ本船ノ航路定限客室ノ等級及積量ニ據リ左ノ割合ヲ以テ定ム但湖川港内ヲ限リ航路スル渡船ニシテ其渡航時間一時間以内ナルモノハ本條ノ限リニアラス

第一 外國航船	
上等室	面積十二平方尺
中等室	一八ニ付 容積七十二立方尺 以上
下等室	但上等室及中等室ハ一人毎ニ一箇以上ノ寢臺ヲ設ケヘシ
第二 内國航船	
上等室	外國航船ノ上等室ニ同シ
中等室	一人ニ付 面積十二平方尺 以上
下等室	一人ニ付 面積九平方尺 以上
第三 近海航船	
上等室	一人ニ付 面積十二平方尺 以上
中等室	一人ニ付 面積八平方尺 以上
下等室	一人ニ付 面積六平方尺 以上



但航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ豫定時間六時間以内ナル船舶ノ下等室容積ニ限り三十立方尺迄遞減スルコトヲ得

第四 平水航船

上等室 一人ニ付面積九平方尺以上  
中等室 一人ニ付面積六平方尺以上  
下等室 一人ニ付面積四、五平方尺以上

第十二條 客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其積量ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第十三條 運航中乗組船員ノ常用室ト客室トハ之ヲ兼用シ若クハ混用スルヲ許サス

第十四條 特別ノ契約ヲ以テ移住民若クハ人夫等多人敷ヲ搭載セントスルトキハ更ニ検査ヲ受ケ

第十一條ニ據リ算出シタル旅客定員以上ノ人員ヲ搭載スルコトヲ得

第十五條 第十四條ノ検査ハ船舶司檢所々々在地ニ於テハ其船舶司檢所其他ノ地方ニ於テハ本船所在地ノ地方官廳ニ於テ執行ス

前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船主若クハ船長ヨリ第四號書式ノ願書ニ検査證書寫ヲ添ヘ本船所在地ノ船舶司檢所又ハ地方官廳ニ差出スヘシ

第十六條 第十五條ノ場合ニ於テ検査官吏ハ旅客ヲ搭載スヘキ場所及準備ノ適否ヲ検査シ左ノ割合ヲ以テ員數ヲ定メ第五號書式ノ別種旅客室検査證書ヲ附與ス

第一 外國航行

一人ニ付(面積九平方尺)以上

第二 内國航行

航海豫定時間二十四時間以上

一人ニ付(面積七平方尺)以上

航海豫定時間二十四時間未満

一人ニ付(面積五平方尺)以上

第十七條 別種旅客室ト通常旅客室トヲ混用スルヲ許サス

第十八條 別種旅客室検査證書ハ第六條ノ検査證書ト共ニ掲載シ置キ其有效期間經過シタルトキハ直チニ船長ヨリ該證書發出ノ官廳ヘ之ヲ返付スヘシ

第十九條 第一回船舶検査ヲ受ケントスルトキハ船體ヲ入渠若クハ上架スヘシ但製造後一箇年ヲ經過セサル船舶ハ其現狀ニ依リ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ次回検査迄入渠若クハ上架ヲ延期スルコトヲ得

第二十條 第二回以後ノ定期検査ニ於テハ毎回船體ノ入渠若クハ上架ヲナスヲ要セスト雖モ鐵船鋼船及船底包板ヲ張ラサル木船ニ在テハ少クモ二箇年毎ニ又船底包板ヲ張リタル木船ニ在テハ少クモ五箇年毎ニ一回ハ船體ヲ入渠若クハ上架スヘシ

乘揚衝突等ノ爲メ又ハ船舶ノ現狀ニヨリ検査官吏ニ於テ船體ノ入渠若クハ上架ヲ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 定期ト臨時トヲ問ハス凡テ船舶ノ検査ヲ受ケントスルトキハ其船主若クハ船長ニ於テ木則ニ定ムル外検査官吏ノ指定ニ從ヒ船體、汽機、汽罐ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二十二條 定期臨時ニ拘ハラズ検査ヲ受ケヘキ期限外ニ於テ船舶ヲ入渠若クハ上架セントスルトキハ豫メ第六號書式ノ届書ヲ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳ニ差出スヘシ)

第二十三條 検査官吏臨檢スルトキハ船主又ハ船長ヨリ登簿船免狀検査證書乗組職員海技免狀

海員雇入證書備品明細簿及日誌等検査ニ必要ナル書類ヲ共檢閱ニ供スヘシ

第二十四條 検査執行ノ際検査官吏ニ於テ船舶ノ尺度噸數ニ差違アリト認ムルトキハ之ヲ改測シ



逓信省及其船籍地方官廳へ報告スヘシ

第二十五條 検査官吏ハ何時タリトモ航行不適當ト認めタル船舶ノ検査證書ヲ取上クルコトヲ得

第二十六條 検査規則第十一條及第十二條ノ場合其他検査證書ニ記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船主若クハ船長ヨリ證據書類ヲ添へ前回検査ヲ受ケタル船舶司檢所又ハ最寄船舶司檢所ヲ經由シテ逓信省(地方官廳ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳)ニ願出テ證書ノ再授若クハ書換ヲ受クヘシ

第二十七條 検査規則第十四條ノ場合ニ於テハ其船主ヨリ前回検査ヲ受ケタル船舶司檢所へ届出ヘシ

第二十八條 船體若クハ汽機、汽鐘其他要部ニ損所ヲ生シ若クハ修繕變更ヲ爲サントスルトキハ船主若クハ船長ヨリ其事由ヲ記載シ仕様書ヲ添へ直チニ最寄船舶司檢所(地方官廳ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳)ニ届出ヘシ

第二十九條 検査證書有効期限内ニ於テ航路定限ヲ變更セントスルトキハ船主ヨリ最寄船舶司檢所(地方官廳)ノ検査ヲ受ケタル船舶ハ其地方官廳ニ願出テ更ニ検査ヲ受クヘシ

第三十條 検査證書有効期限内ト雖モ船主ノ都合ニヨリ定期検査ヲ繰上ケ出願スルコトヲ得

第三十一條 第四條第十六條第二十六條ノ場合ニ於テ検査證書ヲ下付スルトキハ其船主若クハ船長ヨリ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

附則

第三十二條 本則施行以前ニ附與シタル検査證書ハ本則ノ爲メニ其效力ヲ妨ケララルヽコトナシ

第一號書式

汽(航)船何丸第何回御検査願

- 一 船主住所氏名
- 一 登録噸數
- 一 定製場
- 一 航路定限
- 一 船體材料
- 一 公稱馬力
- 一 最大汽壓
- 一 前回検査ノ場所
- 一 現有検査證書有効期限
- 一 前回本船入渠若クハ上架ノ年月
- 一 前回汽機水壓試驗年月
- 一 本船船長技術免狀種類及氏名
- 一 本船機長技術免狀種類及氏名
- 一 本船機長技術免狀種類及氏名
- 一 右汽(航)船當時何地ニ碇泊シ(現若クハ上架中ニテ受檢ノ準備状態居候ニ付何月何日御臨檢相成度此段相願候也

明治 年 月 日

何 某 印  
現住所

第二號書式

船舶司檢所宛  
(地方官廳)

主 船	名 船	號 番	汽機 種類	噸數	航路定限	地 名 検査



船 舶 檢 査 證 書

旅 客 定 員			期 有 限	證 書 有 效 期	航 路 定 限	噸 位	主 船 名	船 名
室 下 等	室 中 等	室 上 等						
免 狀 種 類 及 氏 名			具 隔	ノ 端 數	汽 最 大	馬 公 力	種 汽 機	場 定 緊
長 關 機 長 船								

右検査ノ上本書期限内中記載ノ航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得タルニ依リ西洋形船舶検査規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與ス

明治 年 月 日

逓 信 省 印  
(地方廳名)

第三號書式

船 舶 檢 査 假 證 書

旅 客 定 員			期 有 限	證 書 有 效 期	航 路 定 限	噸 位	主 船 名	船 名
室 下 等	室 中 等	室 上 等						
免 狀 種 類 及 氏 名			具 隔	ノ 端 數	汽 最 大	馬 公 力	種 汽 機	場 定 緊
長 關 機 長 船								

右検査ノ上西洋形船舶検査規則ニ遵ヒ此検査假證書ヲ附與ス

但此假證書ハ明治 年 月 日限り無効タルヘシ

明治 年 月 日

官 氏 名 印  
(二名以上ノ検査ニ係ルトキハ連署スルモノトス)



第四號書式

汽(帆)船何丸別種旅客室御検査願

- 一 船主住所氏名
- 一 仕出地及仕向地
- 一 航行里程
- 一 本船平均速力
- 一 航行積定日限
- 一 旅客室ニ當リノ場所

明治 年 月 日

船舶司検査所宛  
(地方官廳)

右汽(帆)船今般別種旅客搭乗航行仕度受檢ノ準備相察居候ニ付何月何日御臨檢相成度本般検査積荷相添此段相願候也  
何丸船主若クハ船長  
現住 所 某 印

第五號書式

別種旅客室検査證書

船名	主船	航路	積定	證書	有效期間	検査地名
別種旅客室積定						
内						
外						

検査執行ノ官廳名印

右検査ノ上西洋形船舶検査細則ニ遵ヒ此證書ヲ附與ス  
明治 年 月 日

第六號書式

汽(帆)船何丸入渠(上架)御届

- 一 船主住所氏名
- 一 登簿噸數
- 一 定緊場
- 一 航路定限
- 一 船體材料
- 一 公稱馬力
- 一 最大汽壓
- 一 前回検査ノ場所
- 一 現有検査證書有效期間
- 一 前回入渠(上架)年月
- 一 今回入渠(上架)ノ目的
- 一 入渠(上架)豫定月日
- 一 出渠(下架)豫定月日
- 一 前回検査ノ節検査官吏ヨリ入渠修繕命令ノ有無及若シ命令アリハ其事項右及御届候也

明治 年 月 日

船舶司検査所宛  
(地方官廳)

何丸船主若クハ船長  
何 某 印  
現住 所

○文部省令第十四號

北海道及沖繩縣尋常師範學校ニ於テ明治二十四年文部省令第二十六號明治二十五年文部省令第六號第八號第十號第十一號第十二號第十四號第十五號ノ規定ニ依リ難キトキハ北海道廳長官沖繩縣



知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
明治二十六年十月二十三日

文部大臣 井上毅

〔參照〕

明治二十四年十一月七日文部省令第二十六號ハ尋常師範學校附屬小學校規程同二十五年十月三日同省令第六號ハ尋常師範學校  
教諭助教諭訓導及書記ノ俸額同年七月十日同省令第八號ハ尋常師範學校ノ學科及其程度同第十號ハ尋常師範學校生徒選  
集規則同第十一號ハ尋常師範學校卒業生服務規則同第十二號ハ尋常師範學校校規同第十四號ハ尋常師範學校教諭  
助教諭金監訓導及書記ノ人員同第十五號ハ尋常師範學校簡易科規程ナリ

○大藏省令第二十四號

明治二十三年十一月十一日大藏省令第三十四號印紙類賣下買捌規則施行細則第一條第二項中一區トアル下  
ニ若クハ數區ノ五字ヲ挿入ス  
明治二十六年十月三十一日

大藏大臣 渡邊國武

〔參照〕

大藏省令第三十四號印紙類賣下買捌規則施行細則(明治二十三年十一月十四日)抄錄  
第一條第二項  
賣捌人ハ各開稅分署所轄内ヲ一區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ府縣知事適宜共人員ヲ定ムヘシ

○海軍省令第五號  
海軍監獄則施行細則中左ノ通改正ス  
明治二十六年十一月二日

海軍大臣 伯耆西郷從道

第三條ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 刑ノ執行若クハ監獄ノ檢束ヲ免ル、爲メ故ラニ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ又ハ其他ノ所爲  
アルヘカラス

第十八條第一項中「監獄課ヲ」監獄長ニ改メ第二項及第四十二條中「所屬長ヲ經テ」ノ六字及第四十  
七條中課ノ一字ヲ刪ル

第三十八條 刑事被告人及懲治人拘留囚ハ毎日一時間以內輕禁錮囚ハ毎日三時間以內監房外ニ於  
テ運動ヲ許ス

第四十條 刑事被告人ハ湯浴トシ其度數ハ六月ヨリ九月マテ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテ七日  
毎ニ一次ト定ム

囚人懲治人ハ水浴トシ其度數ハ監獄長適宜之ヲ定ム

刑事被告人囚人懲治人ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様之ヲ梳理セシム

醫官ノ申立ニ依リ臨時入浴若クハ鬚髮ヲ梳理セシムルハ前三項ノ例ニアラス

婦女ノ頭髮ハ膏油類ヲ用ヒ及裝飾スルコトヲ得ス

各條中ニ散見スル「監獄課長ヲ」監獄長ニ「看護長ヲ」看護長ニ改ム

〔參照〕

海軍省令第十四號海軍監獄則施行細則(明治二十三年九月二十日)抄錄

第三條 各監房内ニハ在監人ノ遵守ス可キ事項ヲ揭示シ傍觀ヲ施シ解シ易カラシム可シ其事項左ノ如シ  
一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ命令ヲ遵守ス可シ  
一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及廢棄物固ヲ掃除ス可シ



- 一 窓若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハキ及貯水ヲ濫用ス可ラス
- 一 房外ニ出タルトキハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談ス可ラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ談話聲又ハ濫リニ起歩ス可ラス但據間ト雖モ放歌喧嘩又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談ス可ラス
- 一 許可ヲ得サル物件ヲ隣房ニ置キ或ハ勝手ヲ争ヒ若クハ賭博類似ノ遊戯ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ糞穢ニ汚ルカ如キ所爲アル可ラス
- 一 服役中雖職シ及服役セサル時間タリト雖モ部外ノ役場ニ到ル可ラス
- 一 許可ヲ得シテ品物ヲ授受貸借ス可ラス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラズ直ニ看守所ニ通報ス可シ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ病者タル者ハ切實ニ之ヲ看護ス可シ
- 一 第十八條 特赦假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監獄課ニ送シタルトキヨリ二十四時内ニ之ヲ爲ス可シ
- 一 特赦假出獄ノ申渡ヲ爲シタルトキハ之ヲ所屬長ヲ經テ鎮守府司令長官ニ申報シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報ス可シ
- 一 第三十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人懲治人ハ毎日一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス
- 一 第四十條 刑事被告人ハ毎年六月ヨリ九月マテ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテ七日毎ニ一次入湯セシメ前變ハ二月毎ニ一次刑場ハ一月毎ニ一次トス
- 一 囚人懲治人ハ浴浴トシ度數ハ監獄課長適宜ニ之ヲ定ム但一日一回ニ過クルコトヲ得ス其前變刑罰ハ刑事被告人ニ同シ
- 一 警官ノ申出ニ依リ臨時浴湯若クハ前變刑罰セシムルハ前二項ノ例ニアラス
- 一 婦女ノ頭髮ハ香油類ヲ用ヒ及裝飾スルコトヲ許サズ
- 一 第四十二條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其預防ヲ慎重ニス可シ若シ在監人中傳染病者アルトキハ可成隔離ノ室ニ移シ其汚穢ヲ嚴シニ掃除及感染ノ狀勢ヲ詳悉シ所屬長ヲ經テ鎮守府司令長官ニ報シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知ス可シ
- 一 第四十七條 中
- 一 三 監獄課ニ於テ遺儀ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツ可シ

○外務省令第三號

明治二十六年勅令第七十一號 公使館領事館費用條例施行細則左ノ通相定メ明治二十六年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年十一月四日

外務大臣 陸奥宗光

公使館領事館費用條例施行細則

- 第一條 外國在勤中ノ本俸及在勤俸ハ毎月二十一日之ヲ給ス但休日ニ當ルトキハ順延トス
- 一 歸朝轉勤轉官等ノ爲メ任所ヲ離ル、場合ニ於テ本俸及在勤俸ノ日割計算ヲ要スルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ其ノ出發前日ニ給スルコトヲ得
- 第二條 公使館領事館費用條例第七條ノ場合ニ於テ本任國到着前兼任國ニ駐在シタルトキハ同條ニ規定シタル増額ノミヲ給スルモノトス
- 第三條 外國在勤中轉官スルモノ同一ノ地ニ在勤ヲ命セラレタル者ハ其ノ事務引繼ノ前日マテ從前ノ在勤俸ヲ給シ其ノ當日ヨリ新任所ノ在勤俸ヲ給スルモノトス
- 第四條 公使館領事館費用條例第十二條第四但書ノ場合ニ於ケル加俸ハ其ノ本官相當ノ在勤俸ニ依リ算出スルモノトス
- 第五條 公使館領事館費用條例第十二條ノ規定ニ依リ既ニ加俸ヲ給セラレタル者其ノ出發前轉勤ヲ命セラレ又ハ轉官シタルトキハ更ニ新任所ノ在勤俸ニ依リ加俸ヲ算出シ其ノ差額ヲ追給シ又ハ返納セシムルモノトス
- 第六條 公使館領事館費用條例第八條第二項ノ場合ニ於テ金貨ヲ以テ給スル地ヨリ銀貨ヲ以テ給スル地ニ出發スルトキハ本俸及日當ハ其ノ出發前日マテ金貨ヲ以テ給スルモノトス
- 第七條 公使館領事館費用條例第二十五條第一項ノ場合ニ於テ其ノ食料ヲ要スルトキハ全額ヲ給スルモノトス
- 第八條 公使館領事館費用條例第二十八條第一項、第二項ノ場合ニ於テ妻又ハ從者ヲ隨伴シタルトキ其妻又ハ從者ニ對スル船車料ハ各、既ニ拂ヒタル全額ヲ給スルモノトス
- 第九條 在留國內外出張ノ旅費ヲ請求セントスル者ハ特別ノ命令アリタルトキ又ハ緊急ノ用務アリテ經伺ノ違ナキ場合ヲ除クノ外總テ出發前豫メ其ノ用務及旅費額概算ヲ具シ外務大臣ノ認許



ヲ受クヘシ  
 前項經伺ノ違ナキ場合ニ於テハ當該館長又ハ其ノ代理者ハ臨機必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
 ト雖モ早便其ノ詳細ノ事山旅費額概算ヲ具シ外務大臣ノ承認ヲ求ムルヲ要ス  
 第十條 特別ノ場合ヲ除クノ外妻又ハ從者ノ船車料ヲ請求セントスル者ハ出發前豫メ其旨外務大臣ニ届出ヘシ

第十一條 總テ旅行ハ順路ニ由リ可成直行スヘシ  
 私事ノ爲メ外務大臣ノ許可ヲ得テ中途ニ滞留シ若クハ迂路ヲ回行シタルトキト雖モ仍順路ノ路程日數ニ應シ旅費ヲ給ス但病ニ罹リ中途ニ許可ヲ得テ滞留スルモノハ此限ニアラス  
 第十二條 總テ病ニ罹リ歸朝若クハ滞留ヲ願出ル場合ニ於テハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外必ス醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ  
 第十三條 公使館領事館ノ經費ハ左ノ如ク區分ス  
 實費精算ヲ要スル費目

- 一 修繕費ノ内
  - 何所修繕 (帝國政府ニ屬スル建造物、建具、塙壁、溝渠等ノ修繕及右建物ニ附著スル瓦葺管、瓦葺口、水管、水管口、電線、電鈴、錠前、烟筒、暖爐及敷物(對客間、食堂、事務所及其ノ附屬廊下、階段、玄関ニ限ル)並ニ旗竿等修繕及其取替ノ費用)
  - 一 裁判及囚徒費
  - 囚徒就役費
  - 備人料
  - 備人被服費 同
  - 押丁ニ限ル
- 一 朝鮮國居留地取締費

備人料警察所用雜器具消耗品ヲ除ク

- 一 地所家屋借料
- 一 雜給及雜費ノ内
  - 雜費ノ内諸謝金 (法律上ノ問題ニ關シ法律家ニ取調ヲ囑托シタル等ノ場合ニ於ケル謝金ニ限ル)
  - 一 廳費ノ内
    - 天皇皇族御領、門章札、國旗綱環、小旗竿、官印、事務所用机、椅子、書棚、文書箱、鐵函
    - 備品費器具ノ内 (對客間及食堂用) 帽子掛、卓子、テーブル、椅子、腰掛、棚、据附、大鏡、据附釣下、大點火器、窓飾等修理又ハ買足ノ費用
  - 圖書費ノ内書籍地圖類
  - 通信運搬費ノ内運搬費 其保險料共
  - 爲替料
  - 火災保險料 (借家ナレハ契約書ニ據リ帝國政府ニ於テ負擔スヘキ義務アルモノ及官有財產ニ限ル)
  - 道路疏水等諸費 (撥スヘキ義務アルモノ及官有財產ニ限ル)
  - 見本品購入代 (有益ナル物品ノ發明等アリテ報告ニ其物品ノ見本ヲ添付スルノ必要アルトキ又ハ特別ノ命令ニ依リ購入ヲ要スルトキニ限ル)
- 一 賠償及訴訟費
- 一 電信料
- 一 在外國難民貸與金
- 一 墓地管理費



精算ヲ爲サ、ル渡切費目

一 修繕費ノ内

借家ニシテ契約書ニ據リ貸主ニ於テ負擔セサル建築物、  
建具、塙壁、溝渠等ノ修繕及右建築物ニ附著スル瓦斯管、  
瓦葺口、水管、水管口、電線、電鈴、鐘前、烟筒、暖爐及敷物(對  
客間、食堂、事務所及其附屬廊下階段玄關ニ限ル)等修繕又  
ハ取替ノ費用

一 朝鮮國居留地取締費ノ内

備入料

警察所小使ニ限ル

警察所用雜器具

警劔道具及火鉢、手桶、鹽、茶碗、  
土瓶、炭取、火箸、照火器等ノ類

消耗品

薪炭油ノ類

一 雜給及雜費ノ内

備入料

僕長、玄關番、事務所小使、但公使館ニ限ル

雜費ノ内廣告料、諸手帳料、印紙料

一 廳費ノ内

備品費器具ノ内

(事務所對客間及食堂用)持運ロノ成ル點火器、テーパー、  
掛、暖爐、附屬品、香拭器具ニ屬スル錠前、窓日除ケ共  
他雜器械器具類修理又ハ買足ノ費用

圖書費ノ内新聞紙雜誌類「アルマナック」「ステートメンツ」、  
「イヤープック」「鐵道時刻表」ノ類共

製本費

筆紙墨文具

封筒、諸帳簿、印肉ノ類共

通信運搬費ノ内郵便稅 郵便接受發送ノ爲メニ要スル諸費共

備人被服費

公使館ニ限ル

一 宴會費

馬車、輪子、端舟及其附屬品共

器具器械其他借料

領事館ハ天長節ニ限ル

第十四條 前條科目外ノ費用ハ各館長若クハ其ノ代理者ノ負擔トス

第十五條 渡切經費ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ初旬ニ於テ之ヲ給ス

第十六條 公使館又ハ領事館開館ノ場合ニ於ケル渡切經費ハ日割計算ヲ以テ之ヲ給シ閉館ノ場合

ニハ其ノ既ニ給シタル額ヲ追徴セス

第十七條 公使館及領事館經費中總テ定額アルモノ共ノ年額ヲ分割シ每支給額ヲ算出スル場合ニ

於テ金貨額又ハ銀貨額ニ厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス金貨ヲ銀貨ニ換算スル場

合ニ於テ亦同シ

第十八條 日割計算ヲナストキハ其ノ月額ニ日數ヲ前乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ後除スヘシ但厘

位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

第十九條 公使館及領事館經費中實費精算ヲ要スル費用ニシテ外國貨幣ノ仕拂ニ係ルモノヲ銀貨

ニ換算スル場合ニ於テ厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ四捨五入シテ厘位ニ止ム

附 則

第二十條 本令ニ掲グルル領事館ニ關スル規定ハ貿易事務館ニモ適用ス

第二十一條 本令第十三條ノ經費區分ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

明治二十四年外務省令第一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス但同省令中經費區分ニ關スル規定ハ明

治二十七年三月三十一日マテ有效ノモノトス

(參照)

明治二十四年十月二日外務省令第一號ハ公使館領事館費用條例細則ナリ

明治二十六年十一月 省令 外務省第三號



○文部省令第十五號

一 明治二十一年文部省令第三號ヲ本月十日限廢止ス  
 一 明治二十一年文部省令第三號ニ依リ從前學則ヲ認可シタル私立學校ニシテ尋常中學校卒業ノ者若クハ尋常中學校ノ程度ニ依リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタル者ヲ入學セシムルモノハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メ仍徵兵令第十一條ニ依ルコトヲ得シム但將來從前ノ學則ヲ變更スル場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ請フヘク地方長官ハ之ヲ文部大臣ニ開申スヘシ  
 明治二十六年十一月四日  
 文部大臣 井上毅

〔參照〕

明治二十一年五月文部省令第三號ハ特別認可學校規則ナリ

法律第一號徵兵令(明治二十二年一月二十二日官報抄録)

第十一條第一項

滿十七歲以上滿二十八歲以下ニシテ官立學校ノ學科ヲ修メタル者ハ府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ得タル學校ニ依リ法律學政治學理財學ノ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服器具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ金額ヲ自辨シ能ハサルノ者ニハ其義務ヲ官給スルコトアル可シ

○逓信省令第十九號

明治二十三年七月逓信省令第十五號攝津國大阪及長門國赤間關郵便爲替貯金管理支所受持區域中左ノ通改正シ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス  
 逓信大臣 伯備黑田清隆  
 大阪郵便爲替貯金管理支所受持區域中沖繩縣ヲ除キ之ヲ赤間關郵便爲替貯金管理支所受持區域ニ編入ス

○逓信省令第二十號

明治二十三年逓信省令第十六號郵便及電信局並ニ郵便爲替貯金局書記補試驗規則ヲ鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補試驗規則ト改稱シ其第一條第二條及第三條ヲ左ノ通改正シ  
 明治二十六年十一月九日  
 逓信大臣 伯備黑田清隆

一 第一條中「郵便電信」ノ上ニ「鐵道」ノ二字ヲ加フ  
 一 第二條中「郵便電信局」ノ上ニ「鐵道局」ノ三字ヲ加ヘ「郵便爲替貯金局」ヲ「郵便爲替貯金管理所」ト「局長」ヲ「局所長」ト改ム  
 一 第三條全文ヲ「逓信省規定ノ電氣通信技術員養成規則ニ依リ電氣通信技術ノ傳習ヲ卒業シ六箇月上其業務ニ從事シタル者ハ試驗ヲ要セス直ニ書記補ニ任用スルコトヲ得」ト改ム

〔參照〕

逓信省令第十六號郵便及電信局並ニ郵便爲替貯金局書記補試驗規則(明治二十三年八月十五日)抄録

第一條

年滿十七歲以上四十五歲以下ニシテ一年以上郵便電信又ハ郵便爲替貯金ノ業務ニ從事シタル者ハ書記補ノ試驗ニ應スルコトヲ得

第二條第一項

郵便電信局郵便局電信局並ニ郵便爲替貯金局ニ於テ書記補ノ任用ヲ要スル時ハ其局長ハ第一條ニ適合スル者ニ就キ別ニ定ムル試驗手續ニ依リ試驗ヲ執行シタル上其成績ヲ逓信大臣ヘ申出ツヘシ

第三條

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ試驗ヲ要セス直ニ書記補ニ任用スルコトヲ得

一 本規則施行ノ前二年以上郵便電信局郵便局又ハ郵便爲替貯金局ノ職員トナリ現ニ其職ニ在ル者ニシテ逓信大臣ニ於テ事務ニ熟練シタルト認ムル者

二 逓信省規定ノ電氣通信技術員養成規則ニ依リ電氣通信技術ノ傳習ヲ卒業シ六箇月上其業務ニ從事シタル者

○逓信省令第二十一號

明治二十五年三月逓信省令第六號登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目左ノ通り改定ス  
 逓信大臣 伯備黑田清隆

- 一 海員試驗手数料
- 一 海技免狀手数料
- 一 水先免狀手数料
- 一 船舶檢査證書手数料(別種旅客室檢査)



○大藏省令第二十五號

明治二十二年常省令第十三號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年十一月十三日

大藏大臣渡邊國武

- 一 第九條ヲ削除ス
- 一 第十七條中「外國及」トアル三字ヲ削ル
- 一 第十八條中「別符付」トアル四字ヲ削ル

〔參照〕

大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則(明治二十二年十月四日)抄録

第九條 金庫ハ毎年三月三十一日ニ於テ其年度中ニ委託セラレタル保管金額ヨリ仕拂タル金額ヲ扣除シ其殘金額ニ對シ更ニ保管證書ヲ製シ同年度中ニ出納官吏ニ交付シタル保管證書ト引換フヘシ

第十七條 外國及運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ其金額ノ監守證書ヲ製シ最近便ヲ以テ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ送付スヘシ

第十八條 金庫ハ前條ノ場合ニ於テ收入官吏ト同場所又ハ其場所ト爲替送金ノ便アル地方ニ於テ仕拂フヘキ仕拂命令ヲ受ルトキハ收入官吏ノ監守證書ニ別符付ノ領收證書添ヘテ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

○大藏省令第二十六號

明治二十二年常省令第十六號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年十一月十三日

大藏大臣渡邊國武

- 一 第一條中「返納告知書ヲ發スヘシ」トアルヲ「返納告知書ヲ發シ同時ニ通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ」ト改ム
- 一 第二條中「拂込」金庫ノ別符付領收證書ヲ得直チニ領收證書ノ檢印及ヒ別符ノ切離ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシトアルヲ「拂込」ヘシト改ム
- 一 第三條ヲ左ノ通改ム

金庫ハ現金ヲ領收シタルトキハ其領收證書ヲ返納人ニ交付シ其通知書ハ直チニ當該仕拂命令官ニ送付スヘシ

一 返納告知書書式左ノ通改ム

備考

領收證書金庫通知書用紙ニハ返納ノ金額番號定額戻入ヲ要スヘキ年度科目等返納告知書發行總ニ於テ記入スルモノトス

用紙適宜横三寸三分

第	何	號	某	年	度	所	管	區	返納人	某
經	常	(臨時)	何	+	(款)	何	+	(項)	何	某

一金何程

此返納告知書本日發行候條現金領收ノ上定額ニ戻入

取計ヲ要ス

明治何年何月何日

仕拂命令官 官 氏 名 印

何地金庫宛

仕拂命令官 官 印



返納告知書		領收證書	
第「何」號「某」年度「所管」廳「返納人」 「何」 經常(臨時)「何」々々(款)「何」々々(項)「要定額」戻入	「一金」何程	第「何」號「某」年度「所管」廳「返納人」 「何」	「一金」何程
右「何年」「何月」「何日」限リ「何地」金庫へ返納スヘシ	金庫 領印	右領收候也	金庫 領印
明治「何年」「何月」「何日」		明治「何年」「何月」「何日」	
仕拂命令官「官」氏「名」 「印」		「何地」金庫 「印」	

通知書		金庫 領印	
第「何」號「某」年度「所管」廳「返納人」 「何」	經常(臨時)「何」々々(款)「何」々々(項)「何」	「一金」何程	金庫 領印
右領收定額ニ戻入候也		右領收候也	
明治「何年」「何月」「何日」		明治「何年」「何月」「何日」	
「仕拂命令官」氏「名」宛		「何地」金庫 「印」	

〔参照〕  
大藏省令第十六號前金渡帳算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程(明治二十二年十月二十八日)抄録  
第一條 前金渡帳算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕拂命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發スヘシ  
第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ其返納告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ミ金庫ノ別符付領收證ヲ得直チニ領收證ノ檢印及ヒ別符ヲ切離シ仕拂命令官ニ請求スヘシ  
第三條 仕拂命令官金庫ノ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シタルトキハ定額戻入ノ要求ヲナサントシ本廳大臣ニ申立ヘシ

明治二十六年十一月 省令 大藏省第二十六號

四〇三



○大藏省令第二十七號

明治二十三年當省令第二號明治二十六年十二月三十一日限り廢止ス

明治二十六年十一月十三日

大藏大臣渡邊國武

〔參照〕

明治二十三年十一月二日大藏省令第二號ハ出納官吏身元保證金取扱規則ナリ

○大藏省令第二十八號

明治二十三年當省令第十七號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

明治二十六年十一月十三日

大藏大臣渡邊國武

一省令文中「金額氏名表」トアル下ニ「任拂命令官ヨリ交付スル通知書」ノ十四字ヲ加フ  
一備考第四ヲ左ノ通改ム

集令仕拂命令集令仕拂請求書ノ内受取人總代人ヘ交付スヘキ分又ハ各屬ニ於テ官吏申合セノ  
上其一人ヲ總代人トナシ之ニ任拂ノタメ任拂命令仕拂請求書ヲ發シ金庫所在地外ヘ送金ヲ要  
スル分ノ通知書ニハ表面裏面共「何某」トアル傍ニ肩書ニテ何應勤務何ノ誰外何人總代人ト記  
入スルモノトス

一仕拂命令仕拂請求書式ヲ左ノ通改メ末尾ニ通知書書式ヲ加フ

〔備考〕

〔内及印章ハ孰モホ〕

「任拂請求書」ナルトキハ任拂命令持受人云々トアル仕拂請求書持受人云々ト記シ又仕拂請求書及集令仕拂請求  
書ニハ作樂及鐵道會計ニ於テハ出納部(臨時部)トアル「作樂(鐵道)會計部」出納ト記シ學校及圖書館會計ニ  
於テハ出納部ノ上ニ「學校及圖書館會計部」ノ九字ヲ加記スルモノトス

令 命 拂 仕 內 案

乙第何號	某年度	出	經常部(臨時部)
何所管	何々(款)	何々(項)	
金五拾圓也	現金支給高		
内金四拾九圓五拾錢也	國庫納金引去高		
金五拾錢也			
何之誰渡			
又ハ (何之誰外何人代何之誰)			
明治何年何月何日			
仕拂命令官官氏名			
何地金庫宛			
某省所管何所收入官吏官氏名		明治何年何月何日金庫へ送付	

「任拂命令官官印」

印



明治二十六年十一月廿八日 大藏省第二十八號

明治何年 何月何日	第何號	某年度歲出 經常部 (臨時部)
	何廳所管	何々(款) 何々(項)
	金五拾圓也 内 金四拾九圓五拾錢也 金五拾錢也	現金支給高 國庫納金引去高
		何之誰渡
		又、 (何之誰外何人代人何之誰)
		何地金庫宛
	某省所管何廳收入官吏官氏名	

四〇七

任拂命令官制印

任 拂 命 令		
甲第何號	某年度歲出	經常部 (臨時部)
何廳所管	何々(款)	何々(項)
金五拾圓也 内 金四拾九圓五拾錢也 金五拾錢也	現金支給高 國庫納金引去高	何之誰渡
		又、 (何之誰外何人代人何之誰)
		本行ノ金額此任拂命令持參人ニ任拂可有之候也
		明治何年何月何日
		任拂命令官官氏名印
		何地金庫宛
某省所管何廳收入官吏官氏名		5 0 0 0 0

明治二十六年十一月廿八日 大藏省第二十八號

四〇六



明治二十六年十一月 省令 大藏省第二十八號

明治何年 何月何日	第何號	某年度歲出	經常部	(臨時部)
	何廳所管	何(款)	何(項)	集合
金百圓也		現金支給高		
内金九拾九圓也		國庫納金引去高		
金壹圓也				
何之雜外何人渡				
又ハ				
(何之雜外何人代人何之雜外何人)				
何地金庫				
某省所管何廳收入官吏官氏名				

仕拂命令印刷印

四〇九

### 集 合 仕 拂 命 令

明治何年 何月何日	第何號	某年度歲出	經常部	(臨時部)
	何廳所管	何(款)	何(項)	集合
金百圓也		現金支給高		
内金九拾九圓也		國庫納金引去高		
金壹圓也				
何之雜外何人渡				
又ハ				
(何之雜外何人代人何之雜外何人)				
本行ノ金額此仕拂命令付屬ノ金額氏名表ニ照シ仕拂可有之候也				
明治何年何月何日				
仕拂命令官官氏名				
何地金庫宛				
某省所管何廳收入官吏官氏名	明治何年何月何日	金庫へ送付	100.000	

明治二十六年十一月 省令 大藏省第二十八號

四〇八



用紙適宜 縱四寸五分 横三寸三分

(「内及印字ハ執モ朱」)

通知書 裏面

「取」	「級」	「番」	「號」	「現金庫」	「仕」	「何地金庫」	「受取人」
				現金庫	仕		受取人
<p>「某年度仕拂命令(仕拂請求書)又ハ集合仕拂命令(集合仕拂請求書)」          「何號金領氏名表第何號」(「金領氏名表云々」ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)</p> <p>「金」拾九圓八拾錢也 俸 給 高          「内」貳拾錢也 現金支給高          國庫納金引去高</p>							受取人 金庫 現金 受取 際 二年 日 入 シ 記 名 捺 印 シ テ 之 ヲ 金 庫 ニ 交 付 ス
<p>右金額ニ對スル仕拂命令(仕拂請求書)本日目前記金庫へ交付候          條該金庫ヨリ現金ヲ受取ルヘシ</p>							「何地金庫宛」
<p>明治何年何月何日</p>							「何」
<p>「何某」殿</p>							「官」氏名
<p>「何」</p>							「印」
<p>表書ノ金額領收候也</p>							受取人
<p>明治何年何月何日</p>							「何」
<p>「何地金庫宛」</p>							「某」
<p>「印」</p>							「印」

〔参照〕

大藏省令第十七號(明治二十三年七月十七日)抄録  
本年勅令第百二十五號ニ據リ官吏選抜扶助法第二條ノ納金取入規則制定ニ付文官判任以上ノ者俸給支給ニ係ル仕拂命令仕拂請求書及金額氏名表書式左ノ通相定ム

〔備考〕

第四 仕拂請求書ニ要スル金額及收入官吏氏名ハ此書式ノ如ク記入スヘキモノナレトモ其他ノ要部ハ本年大藏省令第九號書式中第二十二號第二十四號書式ニ據ルモノトス

○大藏省令第二十九號

明治二十三年省令第十八號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス  
明治二十六年十一月十三日 大藏大臣 渡邊 國武

一省令文中仕拂請求書又ハ「トアル下」ニ仕拂命令官ヨリ交付シタル通知書ノ十五字ヲ加フ

一第一條第一項中仕拂命令仕拂請求書又ハ「トアル下」並ニ其旨ヲ署名捺印シタル書面ヲ以テ仕拂命令仕拂請求書「トアル下」ニ通知書ノ各三字ヲ加ヘ第二項第一號ノ次ヘ左ノ一號ヲ加ヘ從前ノ

第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下ケ第三項中會計主務官「トアル下」ニ「出納官吏」ノ四字ヲ加フ

一通知書ナルトキハ金額番號(仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號共)年度仕拂ヘキ金庫名通知書ヲ交付シタル官廳並ニ仕拂命令官氏名受取人氏名住所

一第二條第二項中案内仕拂請求書「トアル下」ニ仕拂命令仕拂請求書ノ九字ヲ加フ

一第二條第三條第四條中會計主務官「トアル下」仕拂命令官又ハ出納官吏「ト改ム

〔參照〕

大藏省令第十八號(明治二十三年七月二十六日)  
仕拂命令仕拂請求書又ハ會計主務官ヨリ交付シタル領收證書出納官吏ヨリ交付シタル引出切符二十三年一月一日以後ニ發シタル仕拂切符ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル時ニ取扱方左ノ通相定ム

第一條 仕拂命令仕拂請求書又ハ領收證書(會計主務官ノ捺印シタル切符)仕拂切符引出切符ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル時ハ記名書



ヨリ其旨ヲ署名捺印シタル書面ヲ以テ仕拂命令仕拂請求書、領收證書(會計主務官ノ署名捺印シタル)仕拂切符、引出切符ニ指定シタル金庫ニ届出可シ

一 仕拂命令、仕拂請求書ナル時ハ金額、番號、年度、科目、振出日付、仕拂命令官會計主務官氏名仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名住所

二 領收證書(會計主務官ノ署名捺印シタル)ナル時ハ金額、番號(仕拂命令又ハ仕拂)年度、支拂フヘキ金庫名、用紙ヲ交付シタル官廳名、受取人氏名住所

三 仕拂切符ナル時ハ金額、番號、年度、科目、振出日付、會計主務官氏名、仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名住所

四 引出切符ナル時ハ番號、金額、振出日付、引出官吏ノ氏名仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名

五 周書ニ捺捺スル印章ハ前ニ仕拂命令官又ハ會計主務官ニ差出シタル請求書又ハ受取證書ニ捺捺シタル印章ト同一ナル印章ヲ用ユヘシ

第二條 金庫ニ於テ前條ノ周書ヲ受ケタル時既ニ仕拂済ナルトキハ其旨ヲ届出人ニ告ケテ周書ヲ返付スヘシ

仕拂以前ナル時ハ案内仕拂命令案内仕拂請求書又ハ氏名表若クハ案内書案内引出切符ニ仕拂故障アル旨ヲ付圖シ周書ハ會計主務官ニ送付スヘシ

但届出人ニ對シテハ周書ノ受取證書ヲ渡スヘシ

第三條 會計主務官金庫ヨリ周書ヲ送付ヲ得タルトキハ之ヲ調査シ正當ナリト認ムルニ於テハ其旨ヲ届書ニ記入シ署名捺印シテ金庫ニ送付スヘシ

第四條 金庫ニ於テ會計主務官ヨリ周書ヲ返付ヲ受ルトキハ債主ニ通知シテ仕拂ヲナスヘシ

○大藏省令第三十號

明治二十三年當省令第二十七號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

大藏大臣 渡邊 國武

明治二十六年十一月十三日

一 省令文中「第三十六條」トアルヲ「第二十五條」ト改メ「會計主務官ヨリ」トアル七字ヲ削ル

一 第二條第一號中「會計主務官」トアル五字ヲ削ル

一 第三條第二項ヲ左ノ通改ム

第一條但書ノ場合ニ於テハ仕拂命令官ハ正當ニ交付スヘキ金額ニ對スル通知書ヲ作り之ヲ債主ニ交付シ前ニ交付シタル通知書ハ取上ケ廢棄スヘシ

一 第四條第五條中「會計主務官」トアルヲ「仕拂命令官」ト改ム

(参照)

大藏省令第二十七號(明治二十三年十月八日)抄録

會計規則第三十六條但書ニヨリ會計主務官ヨリ金庫ニ送付シタル仕拂命令及仕拂請求書ニシテ受取人ニ現金交付前ニ於テ該書通過シタルトコトヲ發見シタルトキ整理手續左ノ通り定ム

第二條 前條ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 仕拂命令及仕拂請求書ノ金額、番號、年度、科目、振出日付、仕拂命令官會計主務官氏名、受取人氏名

第三條 第二項

第一條但書ノ場合ニ於テハ仕拂命令官ヨリ金庫ヘ請求ノ趣ヲ會計主務官ニ通知シ會計主務官ハ正當ニ交付スヘキ金額ノ規定額取證書ヲ作り之ヲ債主ニ交付シ前ニ交付シタル規定額取證書ハ取上ケ廢棄スヘシ

第四條 第一條ノ請求ヲ受ケタルトキハ金庫ハ該書通過シタル金額ヲ振出ノ手續ヲ以テ抽出シ直チニ之ヲ請求書ニ指定ノ債主主管廳取扱及收入官吏ノ收入トシテ輸入ニ受入ルヘシ此場合ニ於テ金庫ハ直チニ其趣ヲ會計主務官及收入官吏ニ通知スヘシ

第五條 前條ニ依リ金庫ヨリ會計主務官ニ送付スル通知書ニハ第二條一項ノ事項ヲ記入スヘシ但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分該書通過シタル場合ニハ其該書通過シタル金額ヲモ記入スヘシ

前條ニ依リ金庫ヨリ收入官吏ニ送付スル通知書ニハ第二條一項及三項ノ事項ヲ記入スヘシ

○大藏省令第三十一號

明治二十四年當省令第十一號中左ノ通改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

大藏大臣 渡邊 國武

明治二十六年十一月十三日

一 第二條第二項中「八月三十一日」トアルヲ「七月三十一日」ト改ム

一 第三條中「收入官吏ニ於テ切離シタル金庫領收證書ノ別符」トアルヲ「收入官吏ニ領置シタル領收濟通知書」ト改ム

(参照)

大藏省令第十一號(明治二十四年五月二十五日)抄録

第二條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ得タルトキハ帳簿ヲ訂正シ直チニ其旨ヲ收入官吏ニ報告シ收入官吏ハ金庫ノ報告ニ依リ

明治二十六年十一月 省令 大藏省第三十一號

四二二



金庫ニ於テ訂正セシムニ於テ帳簿ヲ訂正スヘシ  
 前項ニ依リ訂正ヲナスハ短年度八月三十一日迄ニ請求書ノ金庫ニ到達シタルモノニ限ル  
 第三條 金庫ニ領出シタル納領告知書現金拂込書又ハ納付書ニハ金庫ニ於テ又記入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏又ハ收入官  
 吏ニ於テ切離シタル金庫領收除書ノ別符ニハ該官吏ニ於テ訂正ノ事山ヲ附記シ置クヘシ

○陸軍省令第十四號

明治二十三年陸軍省令第十號陸軍給與令細則旅費ノ部中乙表名稱ノ區畫「少佐或ハ陸地測量師年俸千四百圓以上」ヲ「少佐或ハ相當陸地測量師」ニ「大尉或ハ陸地測量師年俸千四百圓未滿千圓以上」ヲ「大尉或ハ相當陸地測量師」ニ「中少尉或ハ陸地測量師年俸千圓未滿」ヲ「中少尉或ハ相當陸地測量師」ニ改メ同備考第三項中「或ハ俸給ノ四字ヲ削ル

明治二十六年十一月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍省令第十號(明治二十三年四月一日抄録)  
 陸軍給與令細則第九章旅費ノ部

職階	檢査係		班長	名 稱	
	第一	第二		甲 額	乙 額
少佐或ハ陸地測量師年俸千四百圓以上			陸地測量師	陸地測量師	陸地測量師
大尉或ハ陸地測量師年俸千四百圓未滿千圓以上			陸地測量師	陸地測量師	陸地測量師
中少尉或ハ陸地測量師年俸千圓未滿			陸地測量師	陸地測量師	陸地測量師

測量係	檢査係		班長	名 稱	
	第一	第二		甲 額	乙 額
陸地測量師			陸地測量師	陸地測量師	陸地測量師
陸地測量師			陸地測量師	陸地測量師	陸地測量師
陸地測量師			陸地測量師	陸地測量師	陸地測量師

○大藏省令第三十二號  
 明治二十二年當省令第十一號諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿ノ様式左ノ通改正ス  
 明治二十六年十一月二十日  
 大藏大臣渡邊 國武

附 則  
 本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス  
 目下現存ノ用紙帳簿ニシテ尙ホ使用シ得ヘキモノハ之ヲ取續ヒ當分使用スルモ妨ケナシ

- 第一號書式 仕拂豫算計算書
- 第二號書式 領收證
- 第三號書式 現金拂込書領收證書及通知書
- 第四號書式 收入官吏收入報告書
- 第五號書式 歳入事務管理廳收入總報告書
- 第六號書式 仕拂命令
- 第七號書式 金庫出納役仕拂命令受領額報告書
- 第八號書式 繰越計算書
- 第九號書式 國庫日記簿原簿補助簿
- 第十號書式 主計簿















明治二十六年十一月 省令 大蔵省第三十二號

某年度歳入經常部(臨時部) 第四號掛式乙			
何廳所管		明治何年何月分現金拂込済仕譯書 第何號	
摘要	金額		備考
前月迄拂込未済 本月申現金拂込高	0	0	第一 歳入調定済額、收入済額及不納賦損額ニ異動ナク現金拂込高ノ ミニ異動アル月ニ於テハ收入報告書ヲ送付スルニ及ハス單ニ本 書式ニ據リ現金拂込済仕譯書ヲ調製シ之レニ金額月計對照表ヲ 添ヘ收入報告書送付ノ順序ニ據リ歳入事務管理廳ヘ送付スルモ ノトス 第二 用紙ハ厚質製抄引美濃紙若クハ之レニ類似ノ料紙ヲ以テ左側ニ 曲尺一寸餘ヲ綴代ワ明ケ調製スルモノトス
翌月翌月へ繰高	0	0	
明治何年 何月何日	何月何日		
何廳(在勤廳)主任	何收入官吏	何氏名	

四三三

明治二十六年十一月 省令 大蔵省第三十二號

何廳所管 明治			
科目			脚定
款	項	目	本月分
何	何	何何何	70,000,000
	何	何何	0
		何何	0
		何(項)小計	70,000,000
		何(項)小計	0
		合計	70,000,000
		明治何年何月	
		何廳(在勤廳)主任	

四三三







第六號書式甲ノ一

### 案内仕拂命令

乙第何<sup>レ</sup>號 某<sup>レ</sup>年度歳出 經常部(臨時部)  
 何<sup>レ</sup>廳所管 何<sup>レ</sup>\*(款) 何<sup>レ</sup>\*(項)  
 金 〇 百 圓 也

何<sup>レ</sup>之 誰<sup>レ</sup>渡  
 明治何<sup>レ</sup>年何<sup>レ</sup>月何<sup>レ</sup>日  
 仕拂命令官<sup>レ</sup>官<sup>レ</sup>氏名<sup>レ</sup>印  
 何<sup>レ</sup>地金庫宛

明治何<sup>レ</sup>年何<sup>レ</sup>月何<sup>レ</sup>日金庫へ送付

備考  
 會計規則第三十三條ノ仕拂命令用紙ハ大藏省ニ於テ調製シ各省ノ請求ニ由  
 リテ配付スルモノトス

某年度歳入經 何 <sup>レ</sup> 廳所管 明治何 <sup>レ</sup> 年	
摘 要	
前月迄拂込未済 本月中現金拂込高	前月迄拂込未済 本月中現金拂込高
差引翌月へ越高	差引翌月へ越高
明治何 <sup>レ</sup> 年何 <sup>レ</sup> 月何 <sup>レ</sup> 日 歳入事務管理廳	明治何 <sup>レ</sup> 年何 <sup>レ</sup> 月何 <sup>レ</sup> 日 歳入事務管理廳

第五號書式丙

### 某年度歳入經常部(臨 常部(臨時部) 何<sup>レ</sup>廳所管 明治何<sup>レ</sup>年何<sup>レ</sup>月分 現金拂込済總仕譯費 第何<sup>レ</sup>號

金額	備 考	職 名	主任收 入官吏		年 月	金庫へ拂込 未 済 額	
			官 氏 名	官 氏 名		何 <sup>レ</sup> 年何 <sup>レ</sup> 月	何 <sup>レ</sup> 年何 <sup>レ</sup> 月
0 0 0		何 <sup>レ</sup> 職 何 <sup>レ</sup> 職			500.000 0 合計 500.000		
	第二 備考 各主任收入官吏トモ現金拂込仕譯費ノミヲ送付セシ 月報ハ第五號書式甲ニ依リて調製スルモノトシ 製シテハ總務課ニ送付スルモノトス 添入レシレハ總務課ニ送付スルモノトス 用紙ハ厚紙ニシテ寸法ハ縦一尺一寸餘ノ長ク横ハ七寸餘ノ長クハ之ニ類似ノ料紙ヲ以テ左側 ニ曲トス		明治何 <sup>レ</sup> 年 歳入	何 <sup>レ</sup> 月何 <sup>レ</sup> 日 事務管理廳		官 <sup>レ</sup> 氏名 <sup>レ</sup> 印	



〔第六號式甲ノ二〕

備考

第一 會計規則第三十五條ニ據リ金庫所在地外ノ債主ニ仕拂ヲ要スルトキ金庫ニ送付スヘキ仕拂命令集合仕拂命令ハ此ノ書式ニ據リ送付ヲ爲スモノトス但此ノ場合ニ於テハ案内仕拂命令ハ送付ヲ要セス

第二 集合仕拂命令ニテ送金スル場合ニハ金庫所在地ニ於テ仕拂ヲ爲ス集合仕拂命令ト各別ニ調製スルモノトス

(仕拂ノ爲メ)

明治〇〇年 〇月〇日	第 〇〇 號	某年度歳出 經常部 (臨時部)
	何處所管	何々(款) 何々(項)
	金 〇〇 百 〇 圓 也	
	何之誰 渡	
	何地金庫	

仕 拂 命 令

〔仕拂命令官印〕

〔仕拂命令官印〕

部)	甲 〇〇 何 號	某年度歳出 經常部 (臨時部)
	何處所管	何々(款) 何々(項)
	金 〇〇 百 〇 圓 也	
	何之誰 渡	
	本行ノ金銀此仕拂命令持參人ニ仕拂可有之候也	
	明治〇〇年〇月〇日	
	仕拂命令官 官氏名 印	
	何地金庫宛	
	800,000	



前渡仕拂命令

「仕拂命令官制印」

第「何」號 某年度歳出經常部(臨時部) 何廳所管 何々(款) 何々(項) 前渡 金「壹萬圓也」	甲「何」號 某年度歳出經常部(臨時部) 何廳所管 何々(款) 何々(項) 前渡 金「壹萬圓也」
---	---

本行ノ金額何官何ノ階ニ仕拂可有之候也  
 明治「何」年「何」月「何」日  
 仕拂命令官「官氏名」印  
 「何地金庫宛」

10,000.000

「何官何ノ階」渡  
 「何地金庫」

「第六號書式乙」

察内仕拂命令 返 回

「仕拂命令官制印」

乙「何」號 某年度歳出經常部(臨時部) 何廳所管 何々(款) 何々(項) 前渡 金「壹萬圓也」	表書之金額、何府(縣)下何地 何某へ仕拂ヲ要ス 令「仕拂命令官印」 明治何年何月何日金庫へ送付 又「金庫氏名」及「宛」等ノ事項ニ於テ各官主
---	---

「何官何ノ階」渡  
 明治「何」年「何」月「何」日  
 仕拂命令官「官氏名」印  
 「何地金庫宛」

明治何年何月何日金庫へ送付















明治三十六年十一月省令 大藏省第三十二號

年度歲出				國庫原金					
日記丁數	借		貸		年月日	摘要	日記丁數	借	
	圓	錢	圓	錢				圓	錢
1	12,000,000					何何某年度歲入外三件	1	546,000,000	
			1,000,000			.. 某年度歲出外一件			
								12,000,000	
								11,000,000	

四三九

簿「第九號書式乙」				國治					
庫 1.				1. 借					
貸	借或貸		殘	原簿丁數	金	庫	報何號	圓	
	圓	錢						圓	錢
			546,000,000	1.	某年度歲入外三件			546,000,000	0
20,000,000			526,000,000						
				2.	某年度歲出			12,000,000	0
				4.	雜部			8,000,000	0

明治三十六年十一月省令 大藏省第三十二號

四三八